

共通仕様書（Ⅲ）

〔 様 式 集 〕
〔 参 考 資 料 〕

令和 8 年度以降

令和 8 年 4 月 1 日以降適用

岩 手 県 県 土 整 備 部

(白紙)

共通仕様書（Ⅲ） 目 次

1. 様式集	1
2. 参考資料	143

(白紙)

1. 樣 式 集

(白紙)

1. 提出書類一覧表

(1) 契約書に基づく関係書類

様式	書式名	条項	頁
様式第1号	工事工程表	第3条	5～6
様式第2号	請負代金内訳書	第3条	7
様式第3号	下請負人に関する事項の通知請求について	第7条	8
様式第4号	下請負人に関する事項の通知について	第7条	9
様式第5号	監督員選任(変更)通知書	第9条	10
様式第6号	現場代理人等通知書〔変更通知書、経歴書〕	第10条	11～13
様式第7号	工事履行報告書	第11条	14
様式第8号	材料確認願	第13条	15
様式第9号	破壊検査実施通知書	第17条他	16
様式第10号	工事中止通知書	第20条	17
様式第11号	工事中止の解除について	第20条	18
様式第12号	工期延長請求書	第21条	19
様式第13号	建設工事請負契約変更協議書	第18条他	20
様式第14号	建設工事請負契約変更請求書	第18条他	21
様式第15号	請負工事損害発生通知書	第29条	22
様式第16号	請負工事損害状況確認通知書	第29条	23～24
様式第17号	完成届	第31条	25
様式第18号	工事完成証明書	第31条	26
様式第19号	引渡書	第31条他	27
様式第20号	請求書	第32条他	28
様式第21号	工事出来高検査請求書〔出来高報告書、内訳書〕	第37条	29～31
様式第22号	工事出来高検査通知書	第37条	32
様式第23号	指定部分完成検査請求書〔内訳書〕	第38条	33～34
様式第24号	指定部分完成検査通知書	第38条	35
様式第25号	建設工事請負契約履行不能届	—	36
様式第26号	建設工事請負契約解除通知書	第43条	37
様式第27号	保険金(保証金)請求書	—	38
様式第28号	建設工事継続施工通知書〔同意書〕	—	39～40
様式第29号	保証書に係る領収書	—	41
様式第30号	支給品受領書	第15条	42
様式第31号	貸与品借用書	第15条	43

様式

(2) 仕様書に基づく関係書類

様式	名称	項	頁
任意	施工計画書	1-1-1-6	
様式第 32-1 号 第 32-2 号 第 32-3 号 第 32-4 号 第 32-5 号 第 32-6 号	施工体制台帳 再下請負通知書 工事作業所災害防止協議会兼施工体系図 作業員名簿	1-1-1-12	44～53
様式第 33 号	支給品精算書	1-1-1-19	54
様式第 34 号	貸与品返納書	1-1-1-19	55
様式第 35 号	現場発生品調査書	1-1-1-20	56
様式第 36 号	中間技術検査部分施工完了届	3-1-1-8	57
様式第 37 号	中間技術検査内訳書	3-1-1-8	58
様式第 38 号	工事完成届等進達書	3-1-1-8	59
様式第 40 号	中間技術検査復命書	3-1-1-8	60
様式第 41 号	中間技術検査結果通知書	3-1-1-8	61
様式第 42 号	段階確認書	3-1-1-4 11-1-1-2	62
様式第 43 号	工事打合簿	1-1-1-8	63
様式第 44 号	確認・立会依頼書	3-1-1-4 11-1-1-2	64
様式第 45 号 ～第 111 号	施工管理関係管理図表等 (参考) ※	1-1-1-26	65～134
事故報告様式	事故報告書	1-1-1-33	135～136
様式第 113 号	品質証明書	3-1-1-6	137
様式第 114 号	再生資源利用計画書	1-1-1-21	138
様式第 115 号	再生資源利用促進計画書	1-1-1-21	139
様式第 116 号	工事費構成書	3-1-1-1	140
様式第 117 号	創意工夫・社会性等に関する実施状況	3-1-1-10	141～142

※ 施工管理関係管理図表等については参考添付であり、国土交通省国土技術政策総合研究所、公益社団法人地盤工学会等が定める最新の様式を使用すること。

※平成 31 年 4 月 1 日以降に入札公告に付する県土整備部所管工事において、国土交通省東北地方整備局工事関係書類との標準化を行っており、国交省様式を使用する場合は、初回打合せ時に工事打合せ簿（共通仕様書 様式第 43 号）により監督員に報告すること。なお、標準化対象となっていない様式があるため、以下 HP に掲載している標準化一覧を確認すること。

《岩手県トップページ》> 県土づくり > 建設業 > 建設技術関連 ⇒ 設計・積算・入札 > 共通仕様書 > 国土交通省様式との標準化について》

工事書類の取扱一覧表

作成時期	提出書類	様式番号	条項等	受注者が作成必要		備考
				発注者へ提出	受注者が保管	
共通	工事打合簿(指示)	様式第43号	共通仕様書3-1-1-7-1-①			○ 発注者が作成する。
	工事打合簿(協議)	様式第43号	共通仕様書3-1-1-7-1-①	○		
	工事打合簿(承諾)	様式第43号	共通仕様書3-1-1-7-1-①	○		
	工事打合簿(提出)	様式第43号	共通仕様書3-1-1-7-1-①	○		
	工事打合簿(報告)	様式第43号	共通仕様書3-1-1-7-1-①	○		
	工事打合簿(通知)	様式第43号	共通仕様書3-1-1-7-1-①	○		
	工事打合簿(届出)	様式第43号	共通仕様書3-1-1-7-1-①	○		
工事着手時	施工計画書	任意	共通仕様書1-1-1-6-1、参考資料16.施工計画書作成例(参考)	○		軽微な場合の変更施工計画書は提出不要。(工期や数量のわずかな変更等の場合)
	総合評価技術提案書	別途指定されたもの		○		総合評価落札方式の場合、施工計画書に添付する。
	建設資材調書(施工計画書提出時)	右による	契約書附属条件4条	○		施工計画提出時に提出する。
	現場環境改善	任意	特記仕様書	○		対象工事の場合、実施内容等について施工計画書に含む。
	再生資源利用計画書	様式第114号	共通仕様書1-1-1-21-4	○		施工計画書に含め提出する(該当する再生資源がある場合)。
	再生資源利用促進計画書	様式第115号	共通仕様書1-1-1-21-6	○		施工計画書に含め提出する(該当する再生資源がある場合)。
	工事カルテ登録内容確認書	登録機関による	共通仕様書1-1-1-7	○		
	電子納品事前協議チェックシート	右による	参考資料1.岩手県電子納品ガイドライン	○		
	施工体制台帳	様式第32号	共通仕様書1-1-1-12-1	○		下請契約を締結した場合に作成し、工事現場に備えけるとともに、その写しを提出する。
	施工体系図	様式第32号	共通仕様書1-1-1-12-2	○		下請契約を締結した場合に作成し、工事関係者及び公衆が見やすい場所に掲げるとともに、その写しを提出する。
	設計図書の写真確認資料	任意	共通仕様書1-1-1-3-2	○		契約書18条1項1～5号に該当する事実があった場合のみ監督職員に提出する(契約書18条1項の範囲を超えないこと)。
	設計図書の写真確認資料	任意	共通仕様書1-1-1-3-2		○	契約書18条1項1～5号に該当する事実がない場合(設計図書と一致している場合は)監督職員への提示とし、請負者で保管する(契約書18条1項の範囲を超えないこと)。
	工事測量成果表(仮BM及び多角点の設置)	任意		○		仮BM及び多角点の設置に関する測量結果は監督職員に提出する。
	工事測量結果(設計図書との照合)	任意	共通仕様書1-1-1-41-1	○		設計図書と差異があった場合のみ監督職員に報告する。
	工事測量結果(設計図書との照合)	任意			○	設計図書と一致している場合は、監督職員への提示とし、受注者で保管する。
	品質証明員通知書	任意	共通仕様書3-1-1-6-(5)	○		契約図書で規定された場合に提出する。
	掛金収納書	右による	契約書附属条件7条	○		購入しない場合は、不購入理由報告書を発注者に提出するものとする。
法定外労災保険付保状況報告書	右による	契約書附属条件7条	○			
現場代理人等通知書	様式第6号	工事請負契約書10条1項	○			
請負代金内訳書	様式第2号	工事請負契約書3条1項	○			
工事工程表	様式第1号	工事請負契約書3条1項	○			
請求書(前払金)	様式第20号	工事請負契約書34条1項	○			
工事中	県外業者との下請契約締結報告書	右による	契約書附属条件3条	○		県内に主たる営業所を有する者以外と下請契約を締結した場合に提出する。
	産業廃棄物管理表(マニフェスト)	別途制定されたもの	共通仕様書1-1-1-21-2	○		産業廃棄物がある場合に監督職員及び検査職員へ提示すればよく、提出は不要。
	品質証明書	様式第113号	共通仕様書3-1-1-6-(1)	○		契約図書で規定された場合に提出する。
	関係公官庁協議資料	任意	共通仕様書1-1-1-39-3		○	届出前の事前資料の提出は不要。許可後の資料については、提出ではなく提示でよい。ただし、監督職員から提出の請求があった場合は提出する。
	近隣協議資料	任意	共通仕様書1-1-1-39	○		近隣との協議が必要な場合には、監督職員にその都度報告する。
材料確認願(指定材料)	様式第8号	工事請負契約書13条2項	○		指定材料のみの提出とする(設計図書で指定した材料を含む)。	

様式

工事書類の取扱一覧表

作成時期	提出書類	様式番号	条項等	受注者が作成必要		備考	
				発注者へ提出	受注者が保管		
工事中	材料品質証明資料(指定材料以外)	任意	共通仕様書2-1-2-1	○※		※検査時まで提出する。ただし、監督職員の請求あった場合は遅滞なく提示する。	
	段階確認書	様式第42号	共通仕様書3-1-1-4-6	○		・契約図書で規定された場合のみ対象。 ・段階確認書に添付する資料を新たに作成する必要はない(受注者が作成する出来形管理資料に、確認した実測値を手書きで記入する)。	
	確認・立会依頼書	様式第44号	共通仕様書3-1-1-4-1	○			
	休日・夜間作業届	任意	共通仕様書1-1-1-40-2	○		現道上の工事または監督職員が把握していない作業を行う場合に提出する。	
	排出ガス対策型・低騒音型建設機械の写真	—	共通仕様書1-1-1-34-6		○	排出ガス対策型・低騒音型建設機械の写真撮影及び提出は不要とする。	
	工事履行報告書	様式第7号	工事請負契約書11条、共通仕様書1-1-1-27	○			
	安全教育訓練実施資料	任意	共通仕様書1-1-1-30-11		○	実施状況の提示とし、具体的な実施内容は提出不要。	
	事故報告書	事故報告様式	共通仕様書1-1-1-33	○		事故が発生した場合に提出する。	
	支給品受領書	様式第30号	工事請負契約書15条3項	○		支給品の引渡しを受けた場合に提出する。	
	貸与品借用書	様式第31号	工事請負契約書15条3項	○		貸与品の引渡しを受けた場合に提出する。	
	支給品精算書	様式第33号	共通仕様書1-1-1-19-3	○		支給品がある場合に提出する。	
	支給品受払簿	任意	共通仕様書1-1-1-19-2		○	共通仕様書では、受注者が備え付けていなければならない(提出する必要はない)。	
	貸与品返納書	様式第34号	共通仕様書1-1-1-19-6	○		貸与品を返納する場合に提出する。	
	現場発生品調書	様式第35号	共通仕様書1-1-1-20	○		現場発生品がある場合に提出する。	
	検査	建設機械貸付関係	右による	参考資料18.請負工事用建設機械貸付仕様書	○		
工事完成図		設計図書による	共通仕様書1-1-1-22	○			
中間技術検査部分施工完了届		様式第36号	共通仕様書3-1-1-8	○			
完成届		様式第17号	工事請負契約書31条1項	○			
引渡書		様式第19号	工事請負契約書31条4項	○			
請求書(精算払)		様式第20号	工事請負契約書32条1項	○			
工事出来高検査請求書(出来高報告書、内訳書)		様式第21号	工事請負契約書37条2項、共通仕様書1-1-1-25-2	○			
請求書(部分払)		様式第20号	工事請負契約書37条5項	○			
指定部分完成検査請求書(内訳書)		様式第23号	工事請負契約書38条1項	○			
引渡書		様式第19号	工事請負契約書31条4項	○			
請求書(部分払)		様式第20号	工事請負契約書37条5項	○			
工事修補請求書		別途指定する		○			
工事修補完了届		別途指定する		○			
その他		特定調達品目調達実績	別途指定する	共通仕様書1-1-1-34-9、参考資料9.岩手県グリーン購入基本方針	○		
		創意工夫・社会性等に関する実施状況	様式第117号	共通仕様書3-1-1-10	○		創意工夫等を実施すれば提出できる。
	現場環境改善	任意	特記仕様書			対象工事の場合、実施状況等の写真を完成書類に添付する。	
	新技術等施工実態調査	別途指定する	特記仕様書	○		岩手県新技術等活用促進事業に登録されている新技術等を活用した場合。	
	工期延長請求書	様式第12号	工事請負契約書21条	○		工期延長を請求する場合に提出する。	
	建設資材調書(竣工時)	右による	契約書附属条件4条	○			
電子媒体納品書	右による	参考資料1.岩手県電子納品ガイドライン	○		電子納品対象工事の場合に提出する。		

様式第2号

年 月 日

岩手県知事（公所長） あて

受注者 住所
氏名（法人にあっては、その名称及び
代表者の氏名）

請負代金内訳書

工事名
工事場所
契約年月日
工期

年 月 日
年 月 日から 年 月 日まで

費目	工種	種別	細別	規格	単位	員数	単価	金額	
直接工事費	道路土工	掘削工	掘削		式	1			
			埋戻し		式	1			
			……						
間接工事費	共通仮設費	運搬費			式	1			
			準備費		式	1			
			その他		式	1			
	現場管理費	法定福利費	雇用保険料		式	1			
			健康保険料		式	1			
			介護保険料		式	1			
			厚生年金保険料		式	1			
			その他		式	1			
一般管理費等				式	1				
小計									
消費税									
合計									

(注) 1. 現場管理費の内訳として法定福利費（雇用保険料、健康保険料、介護保険料、厚生年金保険料（児童手当拠出金含む））の各項目について事業主負担分を記入し、**直接工事費を含むその他工種は1式計上とし金額を記入すること。**

2. 様式は適宜変更して構わない。

様式

様式第3号

第 号
年 月 日

[受注者] 様

岩手県知事（公所長） 印

下請負人に関する事項の通知請求について

年 月 日付けで工事請負契約を締結した次の工事について、下請負人に関する下記事項を承知したいので、別紙様式により通知されるよう契約書別記第7条に基づき請求します。

記

- 1 工事名
- 2 工事場所
- 3 承知したい事項

- (注) 1. 附属条件第3条に規定する県外業者との下請契約締結報告書に記載される内容以外に確認を要する事項がある場合に使用すること。
2. 様式4号を添付すること。

様式第4号

年 月 日

岩手県知事（公所長） あて

受注者 住所
氏名（法人にあつては、その名称及び
代表者の氏名）

下請負人に関する事項の通知について

年 月 日付けで請求のあつた標記について、下記のとおり通知します。

記

- 1 工事名
- 2 工事場所
- 3 通知事項

（注） 通知事項の内容が確認できる資料を添付すること。

様式

様式第5号

第 号
年 月 日

[受注者] 様

岩手県知事（公所長） 印

監督員選任（変更）通知書

年 月 日付けで工事請負契約を締結した次の工事について、下記のとおり監督員を選任（変更）したので、契約書別記第9条に基づき通知します。

記

工 事 名	工事
工 事 場 所	

区 分	職 名	氏 名
総 括 監 督 員		
主 任 監 督 員		
監 督 員		

（注） 総括監督員を置かない場合における主任監督員は、監督総括業務を併せて担当する。

様式第 6-1 号

現場代理人等通知書

年 月 日

岩手県知事（公所長） あて

受注者 住所
 氏名（法人にあつては、その名称及び
 代表者の氏名）

年 月 日付けで工事請負契約を締結した次の工事について、契約書別記第 10 条に基づき
 現場代理人等を下記のとおり定めたので、別紙経歴書を添えて通知します。

記

工 事 名	
工 事 場 所	

	氏 名	受注者名（JVの場合）
現 場 代 理 人		
主 任 技 術 者		
監 理 技 術 者		
監 理 技 術 者 補 佐		
専 門 技 術 者		
増 員 技 術 者 （ 担 当 技 術 者 ）		
専 任 補 助 者		

様式

様式第 6-2 号

現場代理人等変更通知書

年 月 日

岩手県知事（公所長） あて

受注者 住所

氏名（法人にあつては、その名称及び
代表者の氏名）

年 月 日付けで工事請負契約を締結した次の工事について、現場代理人等を下記のとおり変更したので、別紙経歴書を添えて通知します。

記

工 事 名	
工 事 場 所	

		氏 名	受注者名（JVの場合）
新	現 場 代 理 人		
	主 任 技 術 者		
	監 理 技 術 者		
	監 理 技 術 者 補 佐		
	専 門 技 術 者		
	増員技術者（担当技術者）		
	専 任 補 助 者		
旧	現 場 代 理 人		
	主 任 技 術 者		
	監 理 技 術 者		
	監 理 技 術 者 補 佐		
	専 門 技 術 者		
	増員技術者（担当技術者）		
	専 任 補 助 者		
変 更 年 月 日	年 月 日		
変 更 理 由 （具体的に記入）			

様式第 6-3 号

経 歴 書

本籍地

現住所

氏 名

生年月日

学 歴 (最終学歴)

資 格 (法令による免許及び登録番号)

職 歴

様式

様式第7号

年 月 日

岩手県知事（公所長） あて

受注者 住所

氏名（法人にあつては、その名称
及び代表者の氏名）

工事履行報告書

工 事 名	工 事		
工 事 場 所			
工 期	年 月 日 ～ 年 月 日		
日 付	年 月 日（ 月分）		
月 別	予 定 工 程 % ()は工程変更後	実 施 工 程 %	備 考
(記事欄)			

様式

様式第9号

第 号
年 月 日

[受注者] 様

岩手県知事（公所長） 印

破壊検査実施通知書

標記について、下記により破壊検査を行うので通知します。

記

工 事 名	工事
工 事 場 所	

破壊検査実施の根拠	契約書別記第 条第 項
破 壊 検 査 を 必 要 と す る 理 由	
破 壊 検 査 を 実 施 す る 部 分	
破壊検査実施年月日	年 月 日

様式第 10 号

第 号
年 月 日

〔 受注者 〕 様

岩手県知事（公所長） 印

工事中止通知書

年 月 日付けで工事請負契約を締結した次の工事について、下記のとおり工事の施工を中止するよう、契約書別記第 20 条に基づき通知します。

記

工 事 名	工 事
工 事 場 所	
中 止 前 工 期	自 年 月 日 至 年 月 日

中 止 年 月 日	年 月 日
中 止 予 定 期 間	日間
中 止 箇 所 の 設 計 概 要 等	
中 止 の 理 由	

様式

様式第 11 号

第 号
年 月 日

[受注者] 様

岩手県知事（公所長） 印

工事中止の解除について

年 月 日付け 第 号で工事中止の通知をした次の工事について、中止を解除しますので工事を再開してください。

なお、中止解除に伴い、工事の完成期限を下記のとおりとしますので、御異議がない場合は建設工事請負契約変更請書を 年 月 日までに提出してください。

記

工 事 名	工 事
工 事 場 所	
中 止 前 工 期	自 年 月 日 至 年 月 日

中 止 年 月 日	年 月 日
中 止 解 除 年 月 日	年 月 日
中 止 解 除 箇 所 の 設 計 概 要 等	
中 止 期 間	年 月 日～ 年 月 日（ 日間）
中 止 解 除 に よ る 完 成 期 限	年 月 日

様式第 12 号

年 月 日

岩手県知事（公所長） あて

受注者 住所
 氏名（法人にあつては、その名称及び
 代表者の氏名）

工期延長請求書

年 月 日付で工事請負契約を締結した次の工事について、契約書別記第 21 条に基づき、下記のとおり工期の延長を請求します。

記

工 事 名	工事
工 事 場 所	
工 期	年 月 日 ~ 年 月 日
工期延長請求日数	日
延長請求による完成期限	年 月 日
工期延長請求理由	

- (注) 1. 天候等の状況が確認できる資料、現場写真及び変更工程表を添付すること。
 2. 工期延長請求理由欄は詳細に記載すること。

様式

様式第 13 号

第 号
年 月 日

[受注者] 様

岩手県知事（公所長） 印

建設工事請負契約変更協議書

年 月 日付けで締結した工事請負契約について、次のとおり契約を変更したいので協議します。

なお、契約を変更することについて御異議がない場合は、建設工事請負契約変更請書を 年 月 日までに岩手県知事（公所長）あて提出してください。

記

工 事 名	工事
工 事 場 所	

〔契約変更の内容〕

1. 契約変更による設計内容等
別添変更設計図書及び仕様書のとおり
2. 契約変更による請負代金額の増減額
増・減 金 円
うち取引に係る消費税及び地方消費税の額 増・減 金 円
3. 契約変更による工事完成期限
年 月 日
4. 契約の保証の取扱い

- (注) 1. 〔契約変更の内容〕は、不要の項目を抹消すること。
2. 「契約変更による請負代金額の増減額」は、増・減のいずれかを選択すること。
3. 「契約の保証の取扱い」は、工期の延長変更を行う場合で、契約の保証が金融機関等の保証又は公共工事履行保証証券による保証であるときは、保証期間が変更後の工期を含むように延長変更されるよう記載すること。

【記載例】

- 「契約変更による工事完成期限を含むように保証期間を延長変更するものとする。」
4. 「建設工事請負契約変更請書」の提出期限は、協議開始日から 14 日以内とすること。

様式第 14 号

第 号
年 月 日

岩手県知事（公所長） あて

受注者 住所
氏名 印
（法人にあつては、その名称及び
代表者の氏名）**建設工事請負契約変更請書**

年 月 日付けで協議のあつた建設工事請負契約の変更については、次のとおり承諾します。

記

工 事 名	工 事
工 事 場 所	

〔契約変更の内容〕

1. 契約変更による設計内容等
別添変更設計図書及び仕様書のとおり
2. 契約変更による請負代金額の増減額
増・減 金 円
うち取引に係る消費税及び地方消費税の額 増・減 金 円
3. 契約変更による工事完成期限
年 月 日
4. 契約の保証の取扱い

（注） 1. 〔契約変更の内容〕は、不要の項目を抹消すること。
 2. 「契約変更による請負代金額の増減額」は、増・減のいずれかを選択すること。
 3. 「契約の保証の取扱い」は、契約の変更により保証の内容を変更する場合に当該内容を記載するとともに、金融機関等の保証、公共工事履行保証証券又は履行保証保険契約の締結については、保証内容の変更に係る書類を添付すること。

年 月 日

岩手県知事（公所長） あて

受注者 住所
氏名（法人にあつては、その名称
及び代表者の氏名）

請負工事損害発生通知書

年 月 日付で工事請負契約を締結した次の工事について、年 月 日の〇〇〇〇により損害が発生したので、契約書別記第 29 条に基づき通知します。

記

工 事 名	工 事
工 事 場 所	

[損害の状況]

	名 称	種 別	規格・寸法	単位	総数量	出来形数量	被災数量	管理の状況
工 事 目 的 物								
仮 設 物	被 災 の 内 容							管理の状況
工 事 材 料	被 災 の 内 容							管理の状況
建 設 機 械 器 具	被 災 の 内 容							管理の状況

- (注) 1. 損害額及び当該損害の取片付けに要する費用の額の合計額が請負代金額の 1/100 を超えたと認められる場合に提出すること。
2. 工事の出来高を確認できる資料及び被災状況を確認できる写真を添付すること。
3. 「工事材料」及び「建設機械器具」は、工事現場に搬入済のものであること。

様式第 16 号

第 号
年 月 日

〔 受注者 〕 様

岩手県知事（公所長） 印

請負工事損害状況確認通知書

年 月 日付で損害発生の通知があった次の工事について、下記のとおり損害状況の確認結果及び損害による費用の負担額を通知します。

記

工 事 名	工 事
工 事 場 所	

〔損害の状況〕

	名 称	種 別	規格・寸法	単 位	総数量	出来形確認数量	被災査定数量	摘 要
工 事 目 的 物								
	被災査定内容・数量							摘 要
仮 設 物	被災査定内容・数量							摘 要
	被災査定内容・数量							摘 要
工 事 材 料	被災査定内容・数量							摘 要
	被災査定内容・数量							摘 要
建 設 機 械 器 具	被災査定内容・数量							摘 要
	被災査定内容・数量							摘 要

様式

様式第 16-1 号

負担額の算定	損害の総額		A	
	内 訳	損害の額		
		損害の取片付けに要する費用の額		
	契約書別記第 54 条第 1 項の保険等により 填補される額		B	
	受注者の善良な管理者の注意義務違反による損害額		C	
	損害合計額		(A - B - C) D	
	請負代金額の 1/100 の額		E	
	発注者の負担額		(D - E) F	
受注者の負担額		(D - F) G		

様式第 17 号

完 成 届

年 月 日

岩手県知事（公所長） あて

受注者 住所
氏名（法人にあつては、その
名称及び代表者の氏名）

年 月 日契約の下記工事は、年 月 日をもって全工程を完成したの
で、契約書別記第 31 条第 1 項に基づき届出ます。

記

1 工 事 名					工事
2 工事場所					
3 工 期	自		年	月	日
	至		年	月	日
4 請負代金額					円

工 事 完 成 証 明 書

受 注 者	
工 事 場 所	郡 町 市 村 字 地内
工 事 名	工事
請 負 代 金 額	金 円
着手及び完成年月日	年 月 日 着手 年 月 日 完成

上記工事は、 年 月 日完成検査を行ったところ、契約設計図書のとおり完成したことを証明いたします。

年 月 日

検査員
氏名

印

様式第 19 号

引 渡 書

年 月 日

岩手県知事（公所長） あて

受注者 住所
氏名（法人にあつては、その名称
及び代表者の氏名）

- 1 工事名
- 2 工事場所

上記工事の目的物を本日引き渡します。

〔上記工事のうち、下記目的物を本日引き渡します。〕

（注） [] は一部完成の場合に記入する。

様式

様式第 20 号

年 月 日

岩手県知事（公所長） あて

受注者 住所
氏名（法人にあつては、その名称
及び代表者の氏名）

請 求 書

次のとおり請求します。

請 求 金 額	円 ()
工 事 名	工 事
工 事 場 所	
請 負 代 金 額	円

前回までの受領済額の内訳

前金払		第 3 回	
第 1 回		第 4 回	
第 2 回		計	

振込金融機関 名称 _____ 口座番号 普通・当座

本件責任・担当者職氏名・連絡先※

本件責任者職名・氏名	
担当者職名・氏名	
電子メールアドレス	
T E L	
F A X	

※ 押印を省略する場合は、本件責任・担当者職氏名・連絡先を記載すること。

(注) 請求金額欄の () には、請求の別を前金払、部分払又は精算払と表示すること。

様式第 21 号

工事出来高検査請求書

年 月 日

岩手県知事（公所長） あて

受注者 住所
氏名（法人にあつては、その
名称及び代表者の氏名）

年 月 日付けで工事請負契約を締結した次の工事について、契約書別記第 37 条に基づき第 回出来高部分の検査を請求します。

記

1	工 事 名	工 事
2	工 事 場 所	
3	工 期	
	自	年 月 日
	至	年 月 日
4	請負代金額	円
5	出来高等内訳	別紙のとおり

- (注) 1. 本書は、部分払請求に係る出来形部分等の確認を請求する場合に使用すること。
2. 別紙「別紙(1)工事出来高報告書」及び「別紙(2)工事出来高内訳書」を添付すること。

様式

様式第 22 号

第 号
年 月 日

[受注者] 様

岩手県知事（公所長） 印

工事出来高検査通知書

年 月 日付けで請求のあった工事出来高の確認について、下記のとおり検査結果を通知します。

記

工 事 名	工 事
工 事 場 所	

請 負 代 金 額	円
請 負 代 金 相 当 額 （ 出 来 高 金 額 ）	円
請負代金相当額×9/10	円
前 払 金 額	円
部 分 払 済 額	円
今 回 支 払 限 度 額	円（算定方法は、契約書別記第 37 条第 7 項による）

当該出来高部分は岩手県営建設工事請負契約書別記第 25 条第 5 項の請求の対象とする。

（注）工事出来高検査請求書の別紙「工事出来高報告書」及び「工事出来高内訳書」の写しを添付すること。

指定部分完成検査請求書

年 月 日

岩手県知事（公所長） あて

受注者 住所
氏名（法人にあつては、その
名称及び代表者の氏名）

年 月 日付けで工事請負契約を締結した次の工事について、契約書別記第 38 条に基づき指定部分の完成検査を請求します。

記

1	工 事 名	工 事
2	工 事 場 所	
3	工 期	自 年 月 日
		至 年 月 日
4	請 負 代 金 額	円
5	指定部分完成内訳	別紙のとおり

- (注) 1. 本書は、指定部分の完成検査を請求する場合に使用すること。
2. 別紙「指定部分完成内訳書」を添付すること。

様式第 24 号

第 号
年 月 日

〔 受注者 〕 様

岩手県知事（公所長） 印

指定部分完成検査通知書

年 月 日付で請求のあった指定部分の確認について、下記のとおり検査結果を通知します。

記

工 事 名	工事
工 事 場 所	

請 負 代 金 額 A	円
指定部分に相応する請負代金額 B	円
前 払 金 額 C	円
今 回 支 払 限 度 額	円 $[B \times (1 - C/A)]$

(注) 指定部分完成検査請求書の別紙「指定部分完成内訳書」の写しを添付すること。

様式第 26 号

第 号
年 月 日

〔 受注者 〕 様

岩手県知事（公所長） 印

建設工事請負契約解除通知書

年 月 日付けで締結した下記工事に係る建設工事請負契約について、契約書別記第〇〇条第〇〇号の規定により契約を解除します。

なお、契約解除に伴う出来形部分の検査を 年 月 日に行います。

記

工 事 名	工事
工 事 場 所	
請 負 代 金 額	円
工 期	年 月 日 ～ 年 月 日

契約解除年月日	年 月 日
---------	-------

（注）「第〇〇条第〇〇号」には、第43条各号、第44条各号又は第44条の2各号のうちの該当するいずれかを記入すること。

様式

様式第 27 号

第 号
年 月 日

[金融機関等又は保険会社] 様

岩手県知事（公所長） 印

保険金（保証金）請求書

受注者〇〇〇〇と締結した建設工事請負契約（工事名：〇〇〇〇〇工事）を解除しましたので、下記金額の支払いを請求します。

なお、支払方法については、別途納入通知票を送付しますので、それに従ってください。

記

請求金額

円

[証券番号]

- （注）
1. 契約解除通知書の写しを添付すること。
 2. 請求金額の欄には、違約金の金額（保証（保険）金の金額が違約金の金額未満の場合は保証（保険）金の金額）を記入すること。
 3. 証券番号は、証券番号がある場合のみ記載すること。
 4. 別途調定手続きを行い、納入通知票を金融機関等又は保険会社あて送付すること。

年 月 日

岩手県知事（公所長） あて

受注者相続人 住所
氏名 印
(法人にあつては、その名称及び
代表者の氏名)

建設工事継続施工通知書

年 月 日付けで岩手県と受注者〇〇〇〇との間で建設工事請負契約が締結された下記工事について、年 月 日受注者が死亡したため、相続人である私が契約上の権利義務の一切を承継し工事を継続施工するので通知します。

記

工 事 名	工 事	
工 事 場 所		
請負代金額	円	
工 期	年 月 日 ～ 年 月 日	
承継年月日	年 月 日	
建設業の 許 可	なし (申請中)	年 月 日 岩手県知事・建設大臣 許可 (般・特) 第 一 号

(注) 戸 (除) 籍謄本及び同意書 (他に相続人がある場合) を添付すること。

様式

様式第 28-2 号

年 月 日

相続人 住所
氏名 印

同 意 書

〇〇〇〇〇が死亡前に岩手県との間で締結していた下記工事の請負契約により生ずる権利義務の一切を、相続人〇〇〇〇〇が承継することについて異議がありません。

記

工 事 名	工事
工 事 場 所	
請 負 代 金 額	円
契 約 年 月 日	年 月 日
工 期	年 月 日 ~ 年 月 日

保証書に係る領収書

年 月 日

岩手県知事（公所長） あて

受注者 住所

氏名（法人にあつては、その名称
及び代表者の氏名）

下記工事に係る保証書を受領したので、金融機関等に返還すること及び今後、保証書の滅失、き損等について一切の責任を負うことを約します。

記

工 事 名	工 事
工 事 場 所	
契 約 年 月 日	年 月 日

様式

様式第 30 号

支給品受領書

年 月 日

岩手県知事（公所長） あて

受注者 住所

氏名（法人にあつては、その名称
及び代表者の氏名）

現場代理人 氏名

年 月 日で締結した次の工事の請負契約に基づく下記物品を受領しました。

記

工 事 名	工事
工 事 場 所	

品 名	規 格	単 位	数 量	備 考

(注) 部品がある場合は備考欄に部品名（ボルト等）を記入する。

施工体制台帳

[会社名・事業者ID] _____

[事業所名・現場ID] _____

建設業の 可 許	許可業種	許可番号		許可(更新)年月日
	工事業	大臣 知事	特定 一般 第 号	年 月 日
	工事業	大臣 知事	特定 一般 第 号	年 月 日

工事名称 及び 工事内容				
発注者 及び 住所				
工 期	自 年 月 日	契 約 日	年 月 日	
	至 年 月 日			

契 約 所	区 分	名 称	住 所
	元請契約		
	下請契約		

健康保険等 の加入状況	保険加入 の有無	健康保険		厚生年金保険		雇用保険	
		加入 未加入 適用除外	加入 未加入 適用除外	加入 未加入 適用除外	加入 未加入 適用除外		
	事業所 整理記号等	区分	営業所の名称	健康保険	厚生年金保険	雇用保険	
		元請契約					
		下請契約					

発注者の 監督員名		権限及び意見 申出方法	
--------------	--	----------------	--

監督員名		権限及び意見 申出方法	
現代理人名		権限及び意見 申出方法	
監理技術者名 主任技術者名	専任 非専任	資格内容	
監理技術者名 補佐名		資格内容	
専門 技術者名		専門 技術者名	
資格内容		資格内容	
担当 工事内容		担当 工事内容	

一号特定技能外国人の従事の状況(有無)	有 無	外国人技能実習生の従事の状況(有無)	有 無
---------------------	-----	--------------------	-----

(記入要領)

- 1 上記の記載事項が発注者との請負契約書や下請負契約書に記載ある場合は、その写しを添付することにより記載を省略することができる。
- 2 監理技術者又は主任技術者の配置状況について「専任・非専任」のいずれかに○印を付けること。
- 3 専門技術者には、土木・建築一式工事を施工する場合等でその工事に含まれる専門工事を施工するために必要な主任技術者を記載する。(監理技術者が専門技術者としての資格を有する場合は専門技術者を兼ねることができる。)
- 4 健康保険等の加入状況の記入要領は次の通り。
 - ① 各保険の適用を受ける営業所について、届出を行っている場合には「加入」、行っていない場合(適用を受ける営業所が複数あり、そのうち一部について行っていない場合を含む)は「未加入」に○印を付けること。元請契約又は下請契約に係る全ての営業所で各保険の適用が除外される場合は「適用除外」に○を付けること。
 - ② 元請契約欄には元請契約に係る営業所について、下請契約欄には下請契約に係る営業所について記載すること。なお、元請契約に係る営業所と下請契約に係る営業所が同一の場合には、下請契約の欄に「同上」と記載すること。
 - ③ 健康保険の欄には、事業所整理記号及び事業所番号(健康保険組合にあつては組合名)を記載すること。一括適用の承認に係る営業所の場合は、本店の整理記号及び事業所番号を記載すること。
 - ④ 厚生年金保険の欄には、事業所整理記号及び事業所番号を記載すること。一括適用の承認に係る営業所の場合は、本店の整理記号及び事業所番号を記載すること。
 - ⑤ 雇用保険の欄には、労働保険番号を記載すること。継続事業の一括の認可に係る営業所の場合は、本店の労働保険番号を記載すること。
- 5 一号特定技能外国人の従事の状況について
出入国管理及び難民認定法(昭和二十六年政令第三百十九号)別表第一の二の表の特定技能の在留資格(同表の特定技能の項の下欄第一号に係るものに限る。)を決定された者(以下「一号特定技能外国人」という。)が建設工事に従事する場合は「有」、従事する予定がない場合は「無」に○印を付けること。
- 6 外国人技能実習生の従事の状況について
出入国管理及び難民認定法(昭和二十六年政令第三百十九号)別表第一の二の表の技能実習の在留資格を決定された者(以下「外国人技能実習生」という。)が当該建設工事に従事する場合は「有」、従事する予定がない場合は「無」に○印を付けること。
- 7 事業者 I D、現場 I D、技能者 I Dについて
事業者 I D、現場 I D、技能者 I Dは、建設キャリアアップシステムに登録されている場合に記載すること。(登録していなければ記載不要)

様式

様式第32-2号

《参考》

《下請負人に関する事項》

会社名・事業者ID		代表者名	
住所			
工事名称及び工事内容			
工期	自 年 月 日 至 年 月 日	契約日	年 月 日

建設業の可許	施工に必要な許可業種	許可番号	許可(更新)年月日
	工事業	大臣 特定 第 号 知事 一般	年 月 日
	工事業	大臣 特定 第 号 知事 一般	年 月 日

健康保険等の加入状況	保険加入の有無	健康保険		厚生年金保険		雇用保険	
		加入 未加入 適用除外	加入 未加入 適用除外	加入 未加入 適用除外	加入 未加入 適用除外		
	事業所 整理記号等	営業所の名称	健康保険	厚生年金保険	雇用保険		

現場代理人名		安全衛生責任者名	
権限及び意見申出方法		安全衛生推進者名	
主任技術者名	専任 非専任	雇用管理責任者名	
資格内容		専門技術者名	
		資格内容	
		担当工事内容	

一号特定技能外国人の従事の状況(有無)	有 無	外国人技能実習生の従事の状況(有無)	有 無
---------------------	-----	--------------------	-----

※ [主任技術者、専門技術者の記入要領]

- 1 主任技術者の配置状況について[専任・非専任]のいずれかに○印を付すること。
- 2 専門技術者には、土木・建築一式工事を施工の場合等でその工事に含まれる専門工事を施工するために必要な主任技術者を記載する。(一式工事の主任技術者が専門工事の主任技術者としての資格を有する場合は専門技術者を兼ねることができ、) 複数の専門工事を施工するために複数の専門技術者を要する場合は適宜欄を設けて全員を記載する。
- 3 主任技術者の資格内容(該当するものを選んで記入する)
 - (1) 経験年数による場合
 - 1) 大学卒[指定学科] 3年以上の実務経験
 - 2) 高校卒[指定学科] 5年以上の実務経験
 - 3) 1級1次検定合格[対応種目] 3年以上の実務経験
 - 4) 2級1次検定合格[対応種目] 5年以上の実務経験
 - 5) その他 10年以上の実務経験
 - (2) 資格等による場合
 - 1) 建設業法「技術検定」
 - 2) 建築士法「建築士試験」
 - 3) 技術士法「技術士試験」
 - 4) 電気工事士法「電気工事士試験」
 - 5) 電気事業法「電気主任技術者国家試験等」
 - 6) 消防法「消防設備士試験」
 - 7) 職業能力開発促進法「技能検定」

※ [健康保険等の加入状況の記入要領]

- 1 下請契約に係る営業所以外の営業所で再下請契約を行う場合には、事業所整理記号等の欄を「下請契約」と「再下請契約」の区分に分けて、各保険の事業所整理記号等を記載すること。
- 2 各保険の適用を受ける営業所について、届出を行っている場合には「加入」、行っていない場合(適用を受ける営業所が複数あり、そのうち一部について行っていない場合を含む)は「未加入」に○印を付けること。下請契約又は再下請契約に係る全ての営業所で各保険の適用が除外される場合は「適用除外」に○を付けること。
- 3 健康保険の欄には、事業所整理記号及び事業所番号(健康保険組合にあっては組合名)を記載すること。一括適用の承認に係る営業所の場合は、本店の整理記号及び事業所番号を記載すること。
- 4 厚生年金保険の欄には、事業所整理記号及び事業所番号を記載すること。一括適用の承認に係る営業所の場合は、本店の整理記号及び事業所番号を記載すること。
- 5 雇用保険の欄には、労働保険番号を記載すること。継続事業の一括の認可に係る営業所の場合は、本店の労働保険番号を記載すること。

※ [一号特定技能外国人の従事の状況の記入要領]

出入国管理及び難民認定法(昭和二十六年政令第三百十九号)別表第一の二の表の特定技能の在留資格(同表の特定技能の項の下欄第一号に係るものに限る。)を決定された者(以下「一号特定技能外国人」という。)が建設工事に従事する場合は「有」、従事する予定がない場合は「無」に○印を付けること。

※ [外国人技能実習生の従事の状況の記入要領]

出入国管理及び難民認定法(昭和二十六年政令第三百十九号)別表第一の二の表の技能実習の在留資格を決定された者(以下「外国人技能実習生」という。)が当該建設工事に従事する場合は「有」、従事する予定がない場合は「無」に○印を付けること。

※ 施工体制台帳の添付書類(建設業法施行規則第14条の2第2項)

- ・発注者と作成建設業者の請負契約及び作成建設業者と下請負人の下請契約に係る当初契約及び変更契約の契約書面の写し(公共工事以外の建設工事について締結されるものに係るものは、請負代金の額に係る部分を除く)
- ・主任技術者又は監理技術者が主任技術者資格又は監理技術者資格を有する事を証する書面及び当該主任技術者又は監理技術者が作成建設業者に雇用期間を特に限定することなく雇用されている者であることを証する書面又はこれらの写し
- ・専門技術者をおく場合は、その者が主任技術者資格を有することを証する書面及びその者が作成建設業者に雇用期間を特に限定することなく雇用されている者であることを証する書面又はこれらの写し

再下請負通知書

直 近 上 位
注 文 者 名 _____

【報告下請負業者】

住 所 _____

元請名称・ 事業者 ID	
-----------------	--

会社名・
事業者 ID _____

代表者名 _____

《自社に関する事項》

工 事 名 称 及 工 事 内 容			
工 期	自 年 月 日 至 年 月 日	注 文 者 と の 契 約 日	年 月 日

建 設 業 の 可 許	施工に必要な許可業種	許 可 番 号	許可（更新）年月日
	工事業	大臣 特定 知事 一般 第 号	年 月 日
	工事業	大臣 特定 知事 一般 第 号	年 月 日

健康保険等 の加入状況	保険加入 の有無	健康保険		厚生年金保険		雇用保険	
		加入 未加入 適用除外	加入 未加入 適用除外	加入 未加入 適用除外	加入 未加入 適用除外		
	事業所 整理記号等	営業所の名称	健康保険	厚生年金保険	雇用保険		

監 督 員 名		安全衛生責任者名	
権限及び 意見申出方法		安全衛生推進者名	
現 場 代 理 人 名		雇用管理責任者名	
権限及び 意見申出方法		専 門 技 術 者 名	
主 任 技 術 者 名	専 任 非専任	資 格 内 容	
資 格 内 容		担 当 工 事 内 容	

一号特定技能外国人の従事状況(有無)	有 無	外国人技能実習生の従事状況(有無)	有 無
--------------------	-----	-------------------	-----

※ [主任技術者、専門技術者の記入要領]

- 1 主任技術者の配置状況について[専任・非専任]のいずれかに○印を付すること。
- 2 専門技術者には、土木・建築一式工事を施工の場合等でその工事に含まれる専門工事を施工するために必要な主任技術者を記載する。(一式工事の主任技術者が専門工事の主任技術者としての資格を有する場合は専門技術者を兼ねることができる。) 複数の専門工事を施工するために複数の専門技術者を要する場合は適宜欄を設けて全員を記載する。
- 3 主任技術者の資格内容(該当するものを選んで記入する)
 - (1)経験年数による場合
 - 1)大学卒[指定学科] 3年以上の実務経験
 - 2)高校卒[指定学科] 5年以上の実務経験
 - 3)1級1次検定合格[対応種目] 3年以上の実務経験
 - 4)2級1次検定合格[対応種目] 5年以上の実務経験
 - 5)その他 10年以上の実務経験
 - (2)資格等による場合
 - 1)建設業法「技術検定」
 - 2)建築士法「建築士試験」
 - 3)技術士法「技術士試験」
 - 4)電気工事士法「電気工事士試験」
 - 5)電気事業法「電気主任技術者国家試験等」
 - 6)消防法「消防設備士試験」
 - 7)職業能力開発促進法「技能検定」

※ [健康保険等の加入状況の記入要領]

- 1 下請契約に係る営業所以外の営業所で再下請契約を行う場合には、事業所整理記号等の欄を「下請契約」と「再下請契約」の区分に分けて、各保険の事業所整理記号等を記載すること。
- 2 各保険の適用を受ける営業所について、届出を行っている場合には「加入」、行っていない場合(適用を受ける営業所が複数あり、そのうち一部について行っていない場合を含む)は「未加入」に○印を付けること。下請契約又は再下請契約に係る全ての営業所で各保険の適用が除外される場合は「適用除外」に○を付けること。
- 3 健康保険の欄には、事業所整理記号及び事業所番号(健康保険組合にあつては組合名)を記載すること。一括適用の承認に係る営業所の場合は、本店の整理記号及び事業所番号を記載すること。
- 4 厚生年金保険の欄には、事業所整理記号及び事業所番号を記載すること。一括適用の承認に係る営業所の場合は、本店の整理記号及び事業所番号を記載すること。
- 5 雇用保険の欄には、労働保険番号を記載すること。継続事業の一括の認可に係る営業所の場合は、本店の労働保険番号を記載すること。

※ [一号特定技能外国人の従事の状況の記入要領]

出入国管理及び難民認定法(昭和二十六年政令第三百十九号)別表第一の二の表の特定技能の在留資格(同表の特定技能の項の下欄第一号に係るものに限る。)を決定された者(以下「一号特定技能外国人」という。)が建設工事に従事する場合は「有」、従事する予定がない場合は「無」に○印を付けること。

※ [外国人技能実習生の従事の状況の記入要領]

出入国管理及び難民認定法(昭和二十六年政令第三百十九号)別表第一の二の表の技能実習の在留資格を決定された者(以下「外国人技能実習生」という。)が当該建設工事に従事する場合は「有」、従事する予定がない場合は「無」に○印を付けること。

様式

様式第32-4号
《参 考》

《再下請負関係》

再下請負業者及び再下請負契約関係について次のとおり報告いたします。

会社名 ・事業者ID			代表者名		
住所 電話番号					
工事名称 及び 工事内容					
工 期	自	年	月	日	
	至	年	月	日	契 約 日
					年 月 日

建設業の 可 許	施工に必要な許可業種	許 可 番 号		許可（更新）年月日
	工事業	大臣 特定 知事 一般	第 号	年 月 日
	工事業	大臣 特定 知事 一般	第 号	年 月 日

健康保険等 の加入状況	保険加入 の有無	健康保険		厚生年金保険		雇用保険	
		加入	未加入 適用除外	加入	未加入 適用除外	加入	未加入 適用除外
	事業所 整理記号等	営業所の名称	健康保険	厚生年金保険	雇用保険		

現場代理人名		安全衛生責任者名	
権限及び 意見申出方法		安全衛生推進者名	
主任技術者名	専 任 非専任	雇用管理責任者名	
資格内容		専門技術者名	
		資格内容	
		担当工事内容	

一号特定技能外国人の従事の状況(有無)	有 無	外国人技能実習生の従事の状況(有無)	有 無
---------------------	-----	--------------------	-----

※再下請通知書の添付書類(建設業法施行規則第14条の4第3項)

・再下請通知人が再下請人と締結した当初契約及び変更契約の契約書面の写し(公共工事以外の建設工事について締結されるものに係るものは、請負代金の額に係る部分を除く)

※ [主任技術者、専門技術者の記入要領]

- 1 主任技術者の配置状況について[専任・非専任]のいずれかに○印を付すること。
- 2 専門技術者には、土木・建築一式工事を施工の場合等でその工事に含まれる専門工事を施工するために必要な主任技術者を記載する。(一式工事の主任技術者が専門工事の主任技術者としての資格を有する場合は専門技術者を兼ねることができる。) 複数の専門工事を施工するために複数の専門技術者を要する場合は適宜欄を設けて全員を記載する。
- 3 主任技術者の資格内容(該当するものを選んで記入する)
 - (1) 経験年数による場合
 - 1) 大学卒[指定学科] 3年以上の実務経験
 - 2) 高校卒[指定学科] 5年以上の実務経験
 - 3) 1級1次検定合格[対応種目] 3年以上の実務経験
 - 4) 2級1次検定合格[対応種目] 5年以上の実務経験
 - 5) その他 10年以上の実務経験
 - (2) 資格等による場合
 - 1) 建設業法「技術検定」
 - 2) 建築士法「建築士試験」
 - 3) 技術士法「技術士試験」
 - 4) 電気工事士法「電気工事士試験」
 - 5) 電気事業法「電気主任技術者国家試験等」
 - 6) 消防法「消防設備士試験」
 - 7) 職業能力開発促進法「技能検定」

※ [健康保険等の加入状況の記入要領]

- 1 下請契約に係る営業所以外の営業所で再下請契約を行う場合には、事業所整理記号等の欄を「下請契約」と「再下請契約」の区分に分けて、各保険の事業所整理記号等を記載すること。
- 2 各保険の適用を受ける営業所について、届出を行っている場合には「加入」、行っていない場合(適用を受ける営業所が複数あり、そのうち一部について行っていない場合を含む)は「未加入」に○印を付けること。下請契約又は再下請契約に係る全ての営業所で各保険の適用が除外される場合は「適用除外」に○を付けること。
- 3 健康保険の欄には、事業所整理記号及び事業所番号(健康保険組合にあつては組合名)を記載すること。一括適用の承認に係る営業所の場合は、本店の整理記号及び事業所番号を記載すること。
- 4 厚生年金保険の欄には、事業所整理記号及び事業所番号を記載すること。一括適用の承認に係る営業所の場合は、本店の整理記号及び事業所番号を記載すること。
- 5 雇用保険の欄には、労働保険番号を記載すること。継続事業の一括の認可に係る営業所の場合は、本店の労働保険番号を記載すること。

※ [一号特定技能外国人の従事の状況の記入要領]

出入国管理及び難民認定法(昭和二十六年政令第三百十九号)別表第一の二の表の特定技能の在留資格(同表の特定技能の項の下欄第一号に係るものに限る。)を決定された者(以下「一号特定技能外国人」という。)が建設工事に従事する場合は「有」、従事する予定がない場合は「無」に○印を付けること。

※ [外国人技能実習生の従事の状況の記入要領]

出入国管理及び難民認定法(昭和二十六年政令第三百十九号)別表第一の二の表の技能実習の在留資格を決定された者(以下「外国人技能実習生」という。)が当該建設工事に従事する場合は「有」、従事する予定がない場合は「無」に○印を付けること。

工事作業所災害防止協議会兼施工体系図

様式№21-5号
(参考)

工事	年	月	日
----	---	---	---

発注者名	
工事名称	

名称名・事業者名	
代表者名	
主任技術者名	
監理技術者兼姓名	
専任技術者名	
専任技師者名	
担当工事内容	

北方安全兼安全管理室

名称	協議会兼施工責任者
----	-----------

副会長	
-----	--

名称名・事業者名	
代表者名	
主任技術者名	
監理技術者兼姓名	
専任技術者名	
専任技師者名	
担当工事内容	

名称名・事業者名	
代表者名	
主任技術者名	
監理技術者兼姓名	
専任技術者名	
専任技師者名	
担当工事内容	

名称名・事業者名	
代表者名	
主任技術者名	
監理技術者兼姓名	
専任技術者名	
専任技師者名	
担当工事内容	

名称名・事業者名	
代表者名	
主任技術者名	
監理技術者兼姓名	
専任技術者名	
専任技師者名	
担当工事内容	

名称名・事業者名	
代表者名	
主任技術者名	
監理技術者兼姓名	
専任技術者名	
専任技師者名	
担当工事内容	

名称名・事業者名	
代表者名	
主任技術者名	
監理技術者兼姓名	
専任技術者名	
専任技師者名	
担当工事内容	

名称名・事業者名	
代表者名	
主任技術者名	
監理技術者兼姓名	
専任技術者名	
専任技師者名	
担当工事内容	

名称名・事業者名	
代表者名	
主任技術者名	
監理技術者兼姓名	
専任技術者名	
専任技師者名	
担当工事内容	

名称名・事業者名	
代表者名	
主任技術者名	
監理技術者兼姓名	
専任技術者名	
専任技師者名	
担当工事内容	

名称名・事業者名	
代表者名	
主任技術者名	
監理技術者兼姓名	
専任技術者名	
専任技師者名	
担当工事内容	

名称名・事業者名	
代表者名	
主任技術者名	
監理技術者兼姓名	
専任技術者名	
専任技師者名	
担当工事内容	

名称名・事業者名	
代表者名	
主任技術者名	
監理技術者兼姓名	
専任技術者名	
専任技師者名	
担当工事内容	

名称名・事業者名	
代表者名	
主任技術者名	
監理技術者兼姓名	
専任技術者名	
専任技師者名	
担当工事内容	

名称名・事業者名	
代表者名	
主任技術者名	
監理技術者兼姓名	
専任技術者名	
専任技師者名	
担当工事内容	

名称名・事業者名	
代表者名	
主任技術者名	
監理技術者兼姓名	
専任技術者名	
専任技師者名	
担当工事内容	

名称名・事業者名	
代表者名	
主任技術者名	
監理技術者兼姓名	
専任技術者名	
専任技師者名	
担当工事内容	

支 給 品 精 算 書

年 月 日

岩手県知事(公所長) あて

受注者 住所

氏名 (法人にあつては、その名称及び代表者の氏名)

(現場代理人氏名)

下記のとおり支給品を精算します。

記

工 事 名		契 約 年 月 日	年 月 日			
品 目	規 格	単 位	数 量			備 考
			支 給 数 量	使 用 数 量	残 数 量	
主任監督員 証 明 欄	上記精算について調査したところ事実と相違ないことを証明する。					物品管理簿登記
	年 月 日					年 月 日
	(職氏名)					印

(注) 部品がある場合には、備考欄に部品名(ボルト等)を記入する。

様式第34号

貸与品返納書

年 月 日

岩手県知事(公所長) あて

受注者 住所

氏名(法人にあつては、その名称
及び代表者の氏名)

現場代理人 氏名

年 月 日付けで締結した次の工事の請負契約に基づく貸与品について、
下記のとおり返納します。

記

工事名	工事
工事場所	

品目	単位	数量	貸与期間	受領場所	返納場所	貸与条件	備考

様式第 36 号

年 月 日

岩手県知事

あて

受注者

住所（法人にあつては、その名称
及び代表者の氏名）

氏名

第 回中間技術検査部分施工完了届

年 月 日、次の工事の第 回中間技術検査部分の施工を完了したのでお届けします。

工 事 名	工 事
工 事 場 所	郡 町 字 地内 市 村
契 約 年 月 日	年 月 日
工 期	年 月 日 着工 年 月 日 完成
今回完了部分の工種 及 び 数 量	

(注) 1. 検査が建設技術振興課長専決に係るものについては 2 部提出のこと。

様式第 38 号

第 号
年 月 日

建設技術振興課総括課長 様

公 所 長

工事完成届等進達書

次の工事について、別紙のとおり完成届等が提出されたので進達します。

工 事 名	
工 事 場 所	
工事完成届等の種類	
本 庁 所 管 課	
監督員 所属・氏名	

- (注) 1. 工事完成届等の写しを添付すること。
2. 工事完成届等の種類の欄には、提出された工事完成届等の標題を記入すること。

様式

様式第 40 号

年 月 日

岩手県知事 あて

検 査 員

氏 名

中間技術検査復命書

年 月 日、次の工事の中間技術検査を実施した結果、契約設計図書及び仕様書のとおり完成したことを認めたので復命します。

		所 管			
工 事 名	工 事				
工 事 場 所	郡	町	字	地 内	
	市	村			
工 期	年	月	日	着 手	
	年	月	日	完 成	
受 注 者					
検 査 工 種 及 び 数 量					

様式第 41 号

中間技術検査結果通知書

受注者	
工事場所	郡 町 字 地内 市 村
工事名	工事
請負代金額	金 円
工期	年 月 日 着手 年 月 日 完成
検査工種 及び数量	

上記工事は、年 月 日中間技術検査を行ったところ、契約設計図書及び仕様書のとおり完成したことを確認したので通知します。

年 月 日

検査員

氏名

印

様式第42号

<h2 style="margin: 0;">段 階 確 認 書</h2> <h3 style="margin: 0;">施 工 予 定 表</h3>																																		
<p style="text-align: right;">年 月 日</p> <p>共通仕様書3-1-1-4 または 共通仕様書11-1-1-2</p> <p style="text-align: center;">に基づき、下記のとおり施工段階の予定時期を報告いたします。</p>																																		
工事名			受注者： 現場代理人：																															
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">種 別</th> <th style="width: 15%;">細 別</th> <th style="width: 20%;">確認時期項目</th> <th style="width: 20%;">施工予定時期</th> <th style="width: 30%;">記 事</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>					種 別	細 別	確認時期項目	施工予定時期	記 事																									
種 別	細 別	確認時期項目	施工予定時期	記 事																														
<p style="text-align: right;">年 月 日</p> <h2 style="text-align: center; margin: 0;">通 知 書</h2> <p>下記種別について、段階確認を行う予定であるので通知する。</p> <p style="text-align: right;">監督職員：</p>																																		
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">確 認 種 別</th> <th style="width: 15%;">確 認 細 別</th> <th style="width: 20%;">確認時期項目</th> <th style="width: 20%;">確認時期予定日</th> <th style="width: 30%;">確認実施日等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>					確 認 種 別	確 認 細 別	確認時期項目	確認時期予定日	確認実施日等																									
確 認 種 別	確 認 細 別	確認時期項目	確認時期予定日	確認実施日等																														
<p style="text-align: right;">年 月 日</p> <h2 style="text-align: center; margin: 0;">確 認 書</h2> <p>上記について、段階確認を実施し確認した。</p> <p style="text-align: right;">監督職員：</p>																																		

総括監督員	主任監督員	監督員

現場代理人	主任（監理） 技 術 者

確認 ・ 立会依頼書

総括	主任	
監督員	監督員	監督員

現場	主任 (監理)
代理人	技術者

確認 ・ 立会事項

工事名 _____ 年 月 日

下記について 確認 ・ 立会 されたく提出します。

記

工 種		
場 所		
資 料		
希望日時	年 月 日	時

確認立会員		
実施日時	年 月 日	時
記 事		

工事 工事 管理図表

受注者
現場代理人

測定者

公所名

番号 月日	記 事
(裏 紙)	

- 注
1. 工種名は、竣工工、下階築造工、築造打ち型水路工、吹付工等と記入する。
 2. 標題は、厚管理図表、基準高管理図表等と記入する。
 3. 番号はあらかじめ測定地点を定め、起点から終点に向かって順序に記入しておく。
 4. 月日は、測定の際、該当測量番号にあたるものを記入する。
 5. 設計値と実測値の単位を定め、目盛に数値を記入する。
 6. 図表には始終値の線を赤線で記入する。
 7. 記録は、手直しの場合等を記入し、再編印を許す。

測定結果表

工事名

工 種 小型水路工

細 別 現場打水路工

受注者
 現場代理人

測定者

測定項目	基準高			a ₁			a ₂			a ₃			略図
	規格値	±30		-20			-20			-30			
測点又は区別	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	
No.7	23,000	23,001	+1	150	152	+2	200	201	+1	500	506	+6	
No.9	23,500	23,511	+11	150	158	+8	200	204	+4	500	501	+1	
No.11	24,000	23,995	-5	150	154	+4	200	207	+7	500	500	0	
No.13	24,500	24,484	-16	150	153	+3	200	207	+7	500	507	+7	
No.15	25,000	25,012	+12	150	153	+3	200	209	+9	500	510	+10	
No.17	25,500	25,504	+4	150	151	+1	200	200	0	500	515	+15	
No.22				120	119	-1	200	205	+5	300	304	+4	
No.24				120	120	0	200	201	+1	300	308	+8	
No.26				120	120	0	200	199	-1	300	301	+1	

(注) 基準高については、設計図書において表示されているものについて記入する。

品質管理・公式・係数・記号表

公 式	$X - R_s - R_m$ 管理図				
		\bar{x} 管理図	R_s 管理図	R_m 管理図	
	C. L.	\bar{x}	\bar{R}_s	\bar{R}_m	
	U. C. L.	$\bar{x} + E_2 \bar{R}_s$	$D_4 \bar{R}_s$	$D_4 \bar{R}_m$	
	L. C. L.	$\bar{x} + E_2 \bar{R}_s$	—	$D_3 \bar{R}_m$	
$x - R_s - R_m$ 管理の管理限界は 3σ を原則とする。					
係 数	n	A_2	D_4	d_2	E_2
	2	1.88	3.27	1.13	2.66
	3	1.02	2.57	1.69	1.77
	4	0.73	2.28	2.06	1.46
	5	0.58	2.11	2.33	1.29
記 号	x : 測定値				
	a, b : 測定値をきめるための箇々の測定値		\bar{R}_s : $\Sigma R_s / (K - 1) = (R_s \text{の和}) / \{(x \text{の数}) K - 1\}$		
	\bar{x} : $\Sigma x / n = (1 \text{組の測定値の和}) / (\text{試料の大きさ})$		R_s : 移動範囲 (互いに相隣れる二つの測定値の差の絶対値)		
	$\bar{\bar{x}}$: $\Sigma \bar{x} / k = (\bar{x} \text{の和}) / (\text{組の数})$		R_m : 測定誤差に関する範囲		
	R : 範囲 = (x の最大値) - (x の最小値)		\bar{R}_m : $\Sigma R_m / K = (R_m \text{の和}) / (\text{組の数})$		
	\bar{R} : $\Sigma R / K = (R \text{の和}) / (\text{組の数})$		C. L. : 管理中心線 U. C. L. : 上方管理限界線 L. C. L. : 下方管理限界線		

工 程 能 力 図

様式

設計基準 名称	日 規格 測定 作業	工 事 日 規 格 測 試	工 事 標 界 限 料	名 單 上 下 大 間	監 工 事 期 受 現 測	督 間 注 場 代 理 者	員 自 至 者 人 名	年 月 日	年 月 日
月 日									
番 号									
記 事									

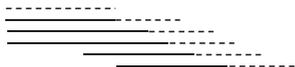
(注) 1. 能力図は、仕様書による規格図表等を基書きで記入する。
 2. 記事欄には、異常原因、その他必要事項を記入する。

様式第49号

X—Rs—Rm管理データシート

名称		工事名		期間		自		年月日		
品質・特性		監督員		至		年月日		年月日		
測定単位		日標準量		受注者						
規格 限界	上限値	試料	大きさ	現場代理人氏名						
	下限値		間隔	測定者氏名						
設計基準値		作業機械名								
月日	試験 番号	測定値				計	平均値	移動範囲	測定値内 の範囲	
		a	b	c	d				Σ	X
	1									
	2									
	3							X	Rs Rm	
	4							平均		
	5							累計		
	小計							小計		
	6							X	Rs Rm	
	7							平均		
	8							累計		
	小計							小計		
	9									
	10									
	11							X	Rs Rm	
	12							平均		
	13							累計		
	小計							小計		
	14									
	15									
	16									
	17									
	18							X	Rs Rm	
	19							平均		
	20							累計		
	小計							小計		
記事								n	d1 D4 E2	
								2	1.13 3.27 2.66	
								3	1.69 2.57 1.77	
								4	2.06 2.28 1.46	
								5	2.33 2.11 1.29	

- (注) 1. 品質特性、測定単位は共通仕様書の品質管理図適用表により記入する。
 2. 規格限界、設計基準値は設計図書に定められた値を記入する。
 3. 管理限界線の引直しは5-3-5-7-10-10-10方式による。



(備考) ——— 管理限界計算のための予備データの区間を示す。
 ----- 上記の管理限界を適用する区間を示す。

4. 以下最近の20個(平均値Xを1個とする)のデータを用い次の10個に対する管理限界とする。

様式第50号

X—Rs—Rm管理図

設計基準値	工日	標準	名量	出張所・監督官	
名称				期	目
品質特性				間	至
測定単位		規格限界	上限値	受注	者
測定方法		下	下限値	現場代理人氏名	名
作業機械名		試料	大さき	測定者氏名	名
			間		
X					
Rs					
Rm					
組の番号					
記					

様式

様式第 53 号

土の含水比試験 (JIS A1203)

工事名 _____ 位 置 _____

試料採取地名 _____ 試料採取月日 _____

試験年月日 _____

現場代理人 _____

測定者 _____

測定日時					
試料番号(深さ)					
容器 No.					
m_a g					
m_b g					
m_c g					
w %					
平均値 w %					
特記事項					
測定日時					
試料番号(深さ)					
容器 No.					
m_a g					
m_b g					
m_c g					
w %					
平均値 w %					
特記事項					
測定日時					
試料番号(深さ)					
容器 No.					
m_a g					
m_b g					
m_c g					
w %					
平均値 w %					
特記事項					
	$w = \frac{m_a - m_b}{m_b - m_c} \times 100$ m_a : (試料+容器)質量 m_b : (炉乾燥試料+容器)質量 m_c : 容器質量				

様式第 54 号

土粒子の密度試験 (測定) (JIS A1202)

工事名 _____ 位 置 _____

調査名, 目的 _____

試験期日 _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____ 現場代理人 _____

試料番号 _____ 測定者 _____

試料番号 (深さ)					
ピクノメーター No.					
(試料+蒸留水+ピクノメーター)の質量 m_s g					
m_s をはかったときの内容物の温度 T °C					
T °Cにおける蒸留水の密度 $\rho_w(T)$ g/cm ³					
温度 T °Cの蒸留水を満たしたときの (蒸留水+ピクノメーター)質量 m_a g					
試料の 炉乾燥質量	容器 No.				
	(炉乾燥試料+容器)質量 g				
	容器質量 g				
m_s g					
土粒子の密度 ρ_s g/cm ³					
平均値 ρ_s g/cm ³					
試料番号 (深さ)					
ピクノメーター No.					
(試料+蒸留水+ピクノメーター)の質量 m_s g					
m_s をはかったときの内容物の温度 T °C					
T °Cにおける蒸留水の密度 $\rho_w(T)$ g/cm ³					
温度 T °Cの蒸留水を満たしたときの (蒸留水+ピクノメーター)質量 m_a g					
試料の 炉乾燥質量	容器 No.				
	(炉乾燥試料+容器)質量 g				
	容器質量 g				
m_s g					
土粒子の密度 ρ_s g/cm ³					
平均値 ρ_s g/cm ³					
試料番号 (深さ)					
ピクノメーター No.					
(試料+蒸留水+ピクノメーター)の質量 m_s g					
m_s をはかったときの内容物の温度 T °C					
T °Cにおける蒸留水の密度 $\rho_w(T)$ g/cm ³					
温度 T °Cの蒸留水を満たしたときの (蒸留水+ピクノメーター)質量 m_a g					
試料の 炉乾燥質量	容器 No.				
	(炉乾燥試料+容器)質量 g				
	容器質量 g				
m_s g					
土粒子の密度 ρ_s g/cm ³					
平均値 ρ_s g/cm ³					
特記事項		1) ピクノメーターの検定結果から求める。			
		$\rho_s = \frac{m_s}{m_s + (m_a - m_s)} \rho_w(T)$			

様式

様式第 55 号

土の粒度試験 (ふるい分析) (JIS A1204)

工事名 _____ 位置 _____

試料採取地名 _____ 試験月日 _____

試料番号 _____ 現場代理人 _____

測定者 _____

全 試 料				2mmふるい通過試料 (沈降分析を行わない場合)				
含 水 比	容器 No.			容器 No.				
	m_a	g		m_a	g			
	m_b	g		m_b	g			
	m_c	g		m_c	g			
	ω	%		ω_1	%			
平均値 ω %				平均値 ω_1 %				
(全試料 + 容器) 質量 _____ g			(2mmふるい通過試料 + 容器) 質量 _____ g					
容器 (No. _____) 質量 _____ g			容器 (No. _____) 質量 _____ g					
全 試 料 質 量 m _____ g			2mmふるい通過試料の質量 m_1 _____ g					
全試料の炉乾燥質量 $m_s = \frac{m}{1 + \omega/100}$ _____ g			2mmふるい通過試料の炉乾燥質量 $m_1 = \frac{m_1}{1 + \omega_1/100}$ _____ g					
2mmふるい残留分の水洗い後の試料			全試料の炉乾燥質量に対する					
(試料 + 容器) 質量 _____ g			$\frac{m_s - m_{s1}}{m_s}$					
容器 (No. _____) 質量 _____ g			2mmふるい通過試料の炉乾燥質量の比 m_{s1}					
炉乾燥質量 m_{s1} _____ g								
2mmふるい残留分 m_{s1} のふるい分析								
ふるい	容器No.	(残留試料+容器)質量	容器、質量	残留試料質量	残 留 率	加積残留率	通過質量百分率 $P(d)$	
mm		g	g	$m(d)$	$\frac{m(d)}{m_s} \times 100$	$\frac{\sum m(d)}{m_s} \times 100$	$(1 - \frac{\sum m(d)}{m_s}) \times 100$	
75				g	m_s %	m_s %	m_s %	
53								
37.5								
26.5								
19								
9.5								
4.75								
2								
2mmふるい残留分 m_{s1} のふるい分析 (沈降分析を行わない場合)								
ふるい	容器No.	(残留試料+容器)質量	容器質量	残留試料質量	残 留 率	加積残留率	加積通過率 P	通過質量百分率 $P(d)$
μm		g	g	$m(d)$	$\frac{m(d)}{m_{s1}} \times 100$	$\frac{\sum m(d)}{m_{s1}} \times 100$	$(1 - \frac{\sum m(d)}{m_{s1}}) \times 100$	$\frac{m_s - m_{s1}}{m_s} \times P$
850					m_{s1} %	m_{s1} %	m_{s1} %	m_{s1} %
425								
250								
106								
75								
特記事項								

様式第 56 号

土の粒度試験 (2mmふるい通過分析) (JIS A1204)

工事名 _____ 位置 _____

試料採取地名 _____ 試験月日 _____

試料番号 _____ 現場代理人 _____
 測定者 _____

2 mmふるい通過試料				土粒子の密度 ρ_s g/cm^3	
含 水 比	容器 No.			塑性指数 I_p	
	m_m g			分散装置の容器 No.	
	m_b g			メスシリンダー No.	
	m_c g			浮ひよう No.	
	ω_1 %			メニスカス補正值 C_m	
平均値 ω_1 %			使用した分散剤、溶液濃度、溶液添加量		
(沈降分析用試料+容器)質量 _____ g					
容器 (No. _____) 質量 _____ g			全試料の炉乾燥質量に対する $\frac{m_s - m_{s0}}{m_s}$		
沈降分析用試料質量 m_1 g			2mmふるい通過試料の炉乾燥質量の比 m_s		
沈降分析用試料の 炉乾燥質量 $m_s = \frac{m_1}{1 + \omega_1 / 100}$ g			$M = \frac{100}{m_s \cdot V} \times \frac{\rho_s}{\rho_s - \rho_w} \times \rho_w$		

沈降分析

①		②		③		④		⑤		⑥		⑦		⑧		⑨		⑩	
測定時刻	経過時間	浮ひようの読み		測定時の水温		有効深さ		粒径		補正係数		加積通過率		通過質量百分率					
	t min	小数部分	γ	γ'	$\gamma + C_m$	L mm	$\sqrt{\frac{30n}{g \cdot (\rho_s - \rho_w)}}$	d mm	$\frac{d}{t}$	F	P %	$M \times (\gamma' + F)$ %	$\frac{P(d)}{m_s} \times ⑨$ %						
	1																		
	2																		
	5																		
	15																		
	30																		
	60																		
	240																		
	1440																		

ふるい分析 (沈降分析を行う場合)

ふるい	容器 No.	(残留試料+容器)質量	容器質量	残留試料質量	残留率	加積残留率	加積通過率 P	通過質量百分率 P(d)
μm		g	g	$m(d)$ g	$\frac{m(d)}{m_s} \times 100$ %	$\frac{\sum m(d)}{m_s} \times 100$ %	$(1 - \frac{\sum m(d)}{m_s}) \times 100$ %	$\frac{m_s - m_{s0}}{m_s} \times P$ %
850								
425								
250								
106								
75								

特記事項

様式

様式第 57 号

土の粒度試験 (粒径加積曲線) (JIS A1204)

工事名 _____

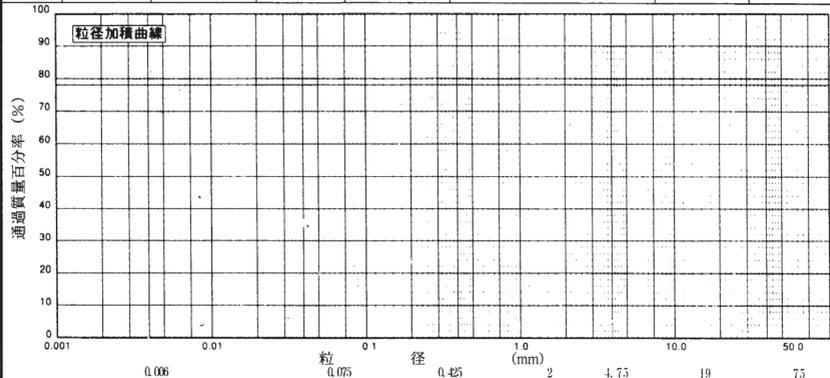
試料採取地名 _____

試験月日 _____

現場代理人 _____

測定者 _____

試料番号 (深さ)					試料番号 (深さ)				
ふ	粒 径 mm	通過質量百分率%	粒 径 mm	通過質量百分率%	粗 礫 分 %				
		75		75		中 礫 分 %			
る	53		53		細 礫 分 %				
	37.5		37.5		粗 砂 分 %				
い	26.5		26.5		細 砂 分 %				
	19		19		シルト分 %				
分	9.5		9.5		粘 土 分 %				
	4.75		4.75		2mmふるい通過質量百分率%				
析	2		2		0.425mmふるい通過質量百分率%				
	0.85		0.85		0.075mmふるい通過質量百分率%				
	0.425		0.425		最大粒径 mm				
	0.250		0.250		60% 粒径 D_{60} mm				
	0.106		0.106		50% 粒径 D_{50} mm				
沈	0.075		0.075		30% 粒径 D_{30} mm				
					10% 粒径 D_{10} mm				
					均等係数 U				
					曲率係数 U_c				
					土粒子の密度 ρ_s g/cm^3				
析					使用した分散剤				
					溶液濃度、溶液添加量				



特記事項 _____

土の工学的分類 (分類表)

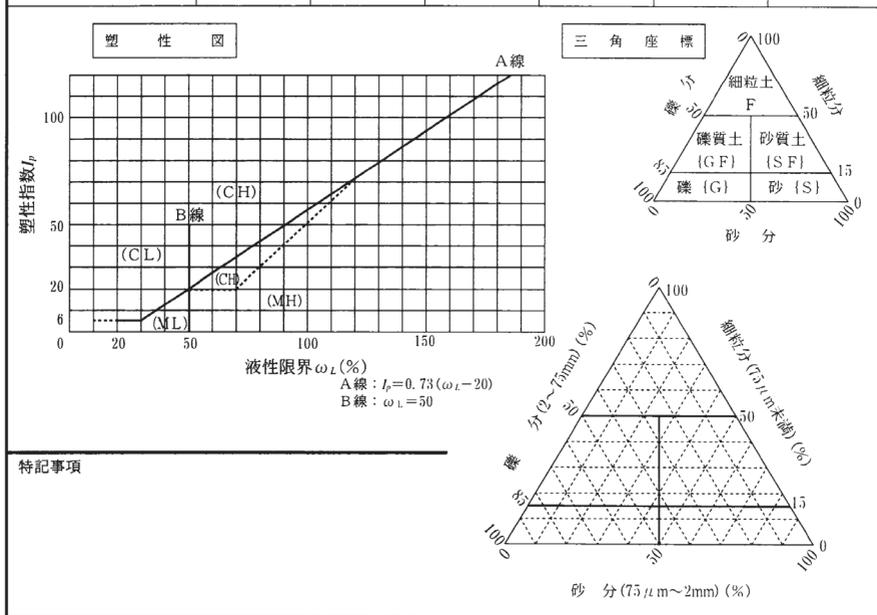
工事名 _____ 位置 _____

試料採取地名 _____ 試験月日 _____

現場代理人 _____

測定者 _____

試料番号 (深 さ)				
礫分 (2~75mm) %				
砂分 (75 μ m~2mm) %				
細粒分 (75 μ m未満) %				
粘土分 (5 μ m未満) %				
最大粒径 mm				
均等係数 U_t				
曲率係数 U_c				
液性限界 ω_L %				
塑性限界 ω_p %				
塑性指数 I_p				
土の分類名				
分類記号				



様式

様式第 59 号

土の液性限界・塑性限界試験 (測定) (JIS A1205)

工事名 _____ 位置 _____

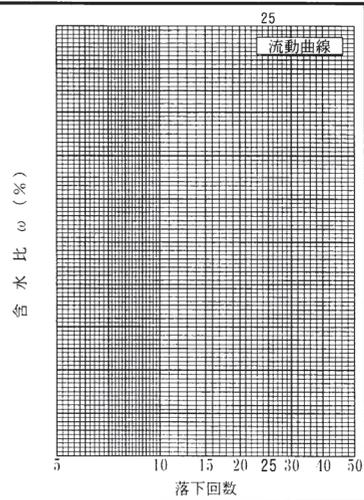
試料採取 _____ 試験月日 _____
 地 名 _____

試料番号 _____

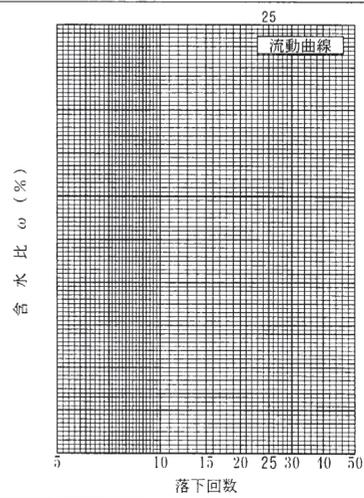
現場代理人 _____

測定者 _____

試料番号 (深さ)			
液 性 限 界 試 験			
落下回数			
含	容器 No.		
水	m_a g		
比	m_b g		
	m_c g		
	ω %		
落下回数			
含	容器 No.		
水	m_a g		
比	m_b g		
	m_c g		
	ω %		
塑 性 限 界 試 験			
含	容器 No.		
水	m_a g		
比	m_b g		
	m_c g		
	ω %		
液性限界 ω_L %	塑性限界 ω_p %	塑性指数 I_p	



試料番号 (深さ)			
液 性 限 界 試 験			
落下回数			
含	容器 No.		
水	m_a g		
比	m_b g		
	m_c g		
	ω %		
落下回数			
含	容器 No.		
水	m_a g		
比	m_b g		
	m_c g		
	ω %		
塑 性 限 界 試 験			
含	容器 No.		
水	m_a g		
比	m_b g		
	m_c g		
	ω %		
液性限界 ω_L %	塑性限界 ω_p %	塑性指数 I_p	



特記事項 _____

様式第 60 号

土の液性限界・塑性限界試験 (試験結果) (JIS A1205)

工事名 _____ 位置 _____

試料採取地名 _____ 試験月日 _____

試料番号 _____

現場代理人 _____

測定者 _____

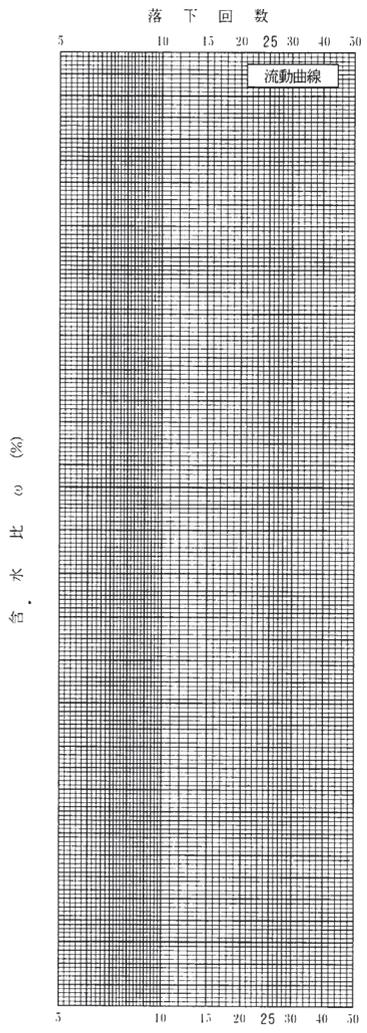
試料番号(深 さ)		
液性限界試験	塑性限界試験	液性限界 ω_L %
落下回数	含水比 ω %	含水比 ω %
		塑性限界 ω_p %
		塑性指数 I_p

試料番号(深 さ)		
液性限界試験	塑性限界試験	液性限界 ω_L %
落下回数	含水比 ω %	含水比 ω %
		塑性限界 ω_p %
		塑性指数 I_p

試料番号(深 さ)		
液性限界試験	塑性限界試験	液性限界 ω_L %
落下回数	含水比 ω %	含水比 ω %
		塑性限界 ω_p %
		塑性指数 I_p

試料番号(深 さ)		
液性限界試験	塑性限界試験	液性限界 ω_L %
落下回数	含水比 ω %	含水比 ω %
		塑性限界 ω_p %
		塑性指数 I_p

特記事項



様式

様式第 61 号

突固めによる土の締固め試験 (測定) (JIS A1210)

工事名 _____ 位置 _____

試料採取地名 _____ 試験月日 _____

試料番号 _____ 現場代理人 _____

測定者 _____

試験方法		土質名称				
試料の準備方法	乾燥法, 湿潤法	ランマー質量	kg	モ ー ル ド	内径	cm
試料の使用方法	繰返し法, 非繰返し法	落下高さ	cm		高さ	cm
含水比	試料分取後 ω , %	突固め回数	回/層		容量	V cm
	乾燥処理後 ω , %	突固め層数	層	質量	m g	
測定 No.	1	2	3	4		
(試料+モールド)質量 m_i^j g						
湿潤密度 ρ_s g/cm ³						
平均含水比 ω %						
乾燥密度 ρ_d g/cm ³						
含 水 比	容器 No.					
	m_a g					
	m_b g					
	m_c g					
	ω %					
容器 No.						
m_a g						
m_b g						
m_c g						
ω %						
測定 No.	1	2	3	4		
(試料-モールド)質量 m_i^j g						
湿潤密度 ρ_s g/cm ³						
平均含水比 ω %						
乾燥密度 ρ_d g/cm ³						
含 水 比	容器 No.					
	m_a g					
	m_b g					
	m_c g					
	ω %					
容器 No.						
m_a g						
m_b g						
m_c g						
ω %						
特記事項						<p>1) 内径15cmのモールドの場合はスペーサーディスクの高さを差引く。</p> <p>2) モールドの質量は底板を含む。</p>
						$\rho_d = \frac{\rho_s}{1 + \omega/100}$

様式第 62 号

突固めによる土の締固め試験 (締固め特性) (JIS A1210)

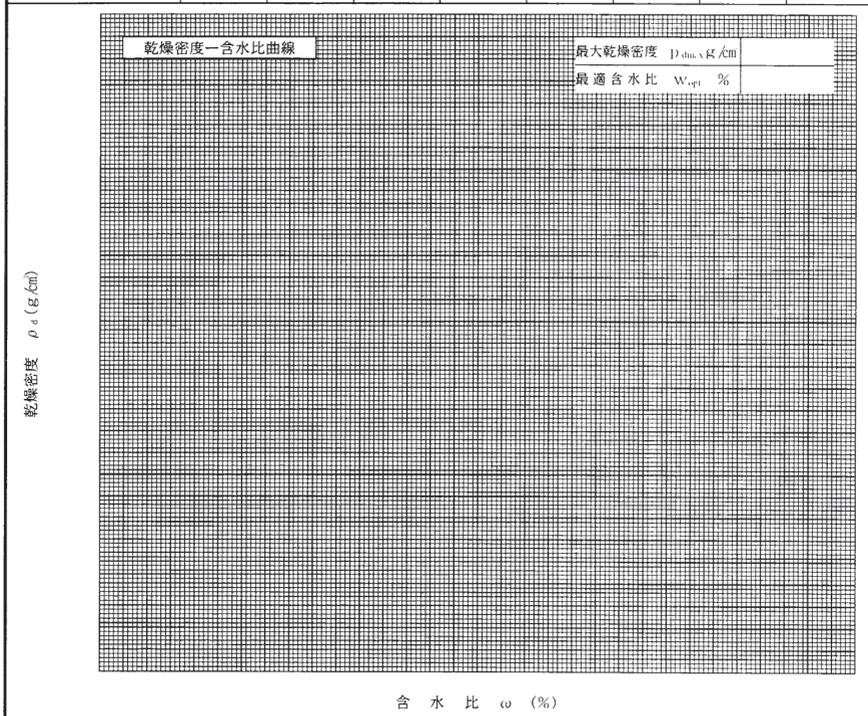
工事名 _____ 位 置 _____

試料採取地名 _____ 試験月日 _____

試料番号 _____ 現場代理人 _____

測 定 者 _____

試 験 方 法			土 質 名 称					
試料の準備方法	乾燥法, 湿潤法		ランマー質量 kg		土粒子の密度 ρ_s g/cm ³			
試料の使用方法	繰返し法, 非繰返し法		落下高さ cm		試料調整前の最大粒径mm			
含水比	試料分取後 ω_0 %			突固め回数 回/層		モールド	内 径 cm	
	乾燥処理後 ω_1 %			突固め層数 層			高 さ h cm	
測 定 No.	1	2	3	4	5	6	7	8
平均含水比 ω %								
乾燥密度 ρ_d g/cm ³								



特記事項

1) 内径15cmのモールドの場合はスパーサーディスクの高さを差引く。
 ゼロ空気間隙曲線の計算式

$$\rho_{d,0} = \frac{\rho_w}{\rho_w/\rho_s + \omega/100}$$

C B R 試験 (初期状態, 吸水膨張試験) (JIS A1211)

工事名 _____ 位置 _____

試料採取地名 _____ 試験月日 _____

試料番号 _____ 現場代理人 _____

測定者 _____

試験方法	締固めた土、乱さない土	ランマー質量	kg	土質名称				
突固め方法		落下高さ	cm	自然含水比 ω_n	%			
試料準備	非乾燥法、空気乾燥法 空気乾燥前含水比 % 試料調整後含水比 ω_s %	突固め回数	回/層	最適含水比 ω_{opt}	%			
		モールド	突固め層数	層	最大乾燥密度 ρ_{dmax}	g/cm ³		
			内径	cm	荷重板質量	kg		
		高さ	cm	モールド容量	V cm			
供試体 No. _____								
含水比	容器 No. _____							
	m_a	g						
	m_b	g						
	m_s	g						
	ω_1	%						
	平均値 ω_1	%						
密度	(試料+モールド)質量 m_s^{21} g							
	モールド質量 m_1^{21} g							
	湿潤密度 ρ_s g/cm ³							
	乾燥密度 ρ_d g/cm ³							
吸水膨張	水浸時間 h	時刻	変位計の読み	膨張量 mm	変位計の読み	膨張量 mm	変位計の読み	膨張量 mm
	0							
	1							
	2							
	4							
	8							
	24							
	48							
	72							
96								
試験	(試料+モールド)質量 m_s^{21} g							
	膨張比 r_r %							
	湿潤密度 ρ_s' g/cm ³							
	乾燥密度 ρ_d' g/cm ³							
平均含水比 ω' %								
特記事項								
1) スペーサーディスクの高さを差引く。 2) モールドの質量は有孔底板を含む。 $r_r = \frac{\text{供試体の膨張量 (mm)}}{\text{供試体の最初の高さ (12.5mm)}} \times 100$ $\rho_s' = \frac{m_s - m_1}{V(1 + r_r/100)}$ $\rho_d' = \frac{\rho_d}{1 + r_r/100}$ $\omega' = \left(\frac{\rho_s'}{\rho_d'} - 1 \right) \times 100$								

様式第 64 号

C B R 試験 (貫入試験) (JIS A1211)

調査名・調査地点 _____ 試験年月日 _____ 年 月 日

供試体条件：水浸・浸水浸 _____ 貫入速さ _____ mm/分 _____ 現場代理人 _____

荷重板質量 _____ kg 検力計No. _____ 測定者 _____

試験条件		水浸	非水浸	貫入速さ mm/mm		荷重板質量 kg					
養生条件		日空气中		荷重計No.		校正係数 kgf/cmf/目盛					
		日水浸		容重 kgf		kgf目盛					
供試体 No.				供試体 No.				供試体 No.			
貫入量 mm		荷重強さ, 荷重		貫入量 mm		荷重強さ, 荷重		貫入量 mm		荷重強さ, 荷重	
読み		平均		読み		平均		読み		平均	
1	2	荷重計の読み	kgf/cmf kgf	1	2	荷重計の読み	kgf/cmf kgf	1	2	荷重計の読み	kgf/cmf kgf
0				0				0			
0.5				0.5				0.5			
1.0				1.0				1.0			
1.5				1.5				1.5			
2.0				2.0				2.0			
2.5				2.5				2.5			
3.0				3.0				3.0			
4.0				4.0				4.0			
5.0				5.0				5.0			
7.5				7.5				7.5			
10.0				10.0				10.0			
12.5				12.5				12.5			
貫入試験後の含水比	容器 No.			容器 No.				容器 No.			
	m_a g			m_a g				m_b g			
	m_b g			m_b g				m_b g			
	m_c g			m_c g				m_c g			
	w_2 %			w_2 %				w_2 %			
平均値 w_2 %			平均値 w_2 %				平均値 w_2 %				
特記事項											

様式

様式第 65 号

C B R 試験 (室内試験結果) (JIS A1211)

調査名・調査地点 _____ 試験年月日 _____ 年 月 日

試料 _____ 現場代理人 _____

測定者 _____

試験方法	締固めた上、乱さない上	ランマー質量	kg	土質名称	
突固め方法		落下高さ	cm	空気乾燥前含水比	%
試料の準備方法	非乾燥法、空気乾燥法	突固め回数	回/層	自然含水比 ω_n	%
試験条件	水浸、非水浸	突固め層数	層	最適含水比 ω_{opt}	%
養生条件	日空气中	モールド	内径	最大乾燥密度 ρ_{dmax} g/cm ³	
	日水浸		高さ ¹⁾	cm	

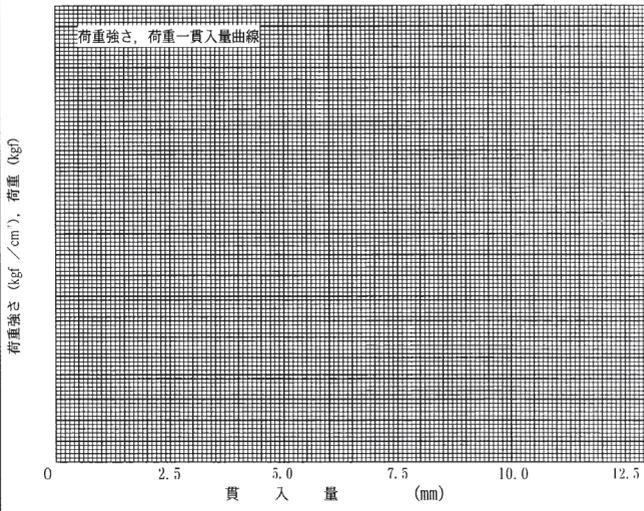
供試体 No. _____

吸水膨張試験	前	含水比 ω_1 %			
		乾燥密度 ρ_d g/cm ³			
	後	膨張比 γ_c %			
		平均含水比 ω' %			
貫入試験	試験後の含水比 ω_2 %				
	貫入量 2.5mmおける CBR %				
	貫入量 5.0mmおける CBR %				
	C B R %				

平均 C B R % _____

特記事項

- 1) スペーサーディスクの高さを差引く。



貫入量 mm	2.5	5.0
荷重 No. 供試体		
重 No. 供試体		
強さ No. 供試体		
標準荷重強さ kgf/cm ²	70	105
標準荷重 kgf	1370	2030

様式第 66 号

現場 C B R 試験 (J I S A 1 2 2 2)

調査名・調査地点 _____ 試験年月日 _____ 年 月 日

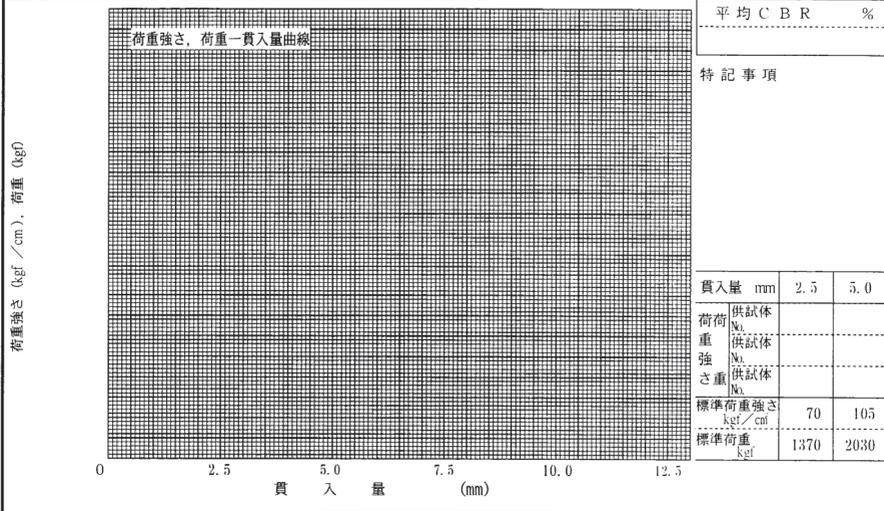
測定番号・深さ _____ m 試験条件・天候 _____

載荷方法 _____ 荷重板 _____ kg

検力計 _____ 検力許容量 _____ kg 現場代理人 _____

ジャッキ名称・容量 _____ 測 定 者 _____

載荷方法	反力の取り方		貫入速度 mm/min				荷重板質量 kg					
	ジャッキ種類	容量 kgf	荷重計 No.		容量 kgf		校正係数 kgf/cm ² /目盛		kgf/目盛			
測点 No.			測点 No.				測点 No.					
貫入量 mm			荷重強さ・荷重		貫入量 mm		荷重強さ・荷重		貫入量 mm		荷重強さ・荷重	
読み		平均	荷重計の読み	kgf/cm ²	読み		平均		読み		平均	
1	2			kgf	1	2			1	2		
0					0				0			
0.5					0.5				0.5			
1.0					1.0				1.0			
1.5					1.5				1.5			
2.0					2.0				2.0			
2.5					2.5				2.5			
3.0					3.0				3.0			
4.0					4.0				4.0			
5.0					5.0				5.0			
7.5					7.5				7.5			
10.0					10.0				10.0			
12.5					12.5				12.5			
貫入量 2.5mm における CBR %			貫入量 2.5mm における CBR %				貫入量 2.5mm における CBR %					
貫入量 5.0mm における CBR %			貫入量 5.0mm における CBR %				貫入量 5.0mm における CBR %					
C B R %			C B R %				C B R %					
試験箇所の含水比 w %			試験箇所の含水比 w %				試験箇所の含水比 w %					

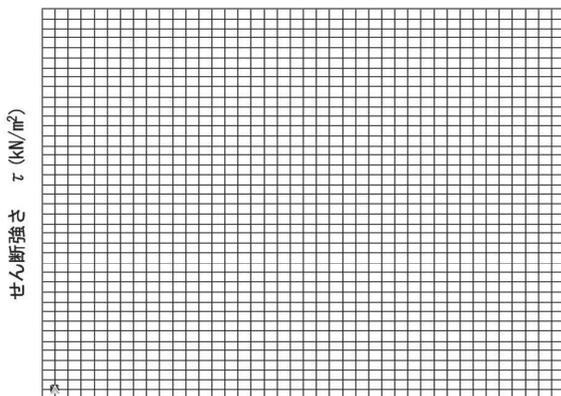


様式第68号

土の直接せん断試験表2

工事名	位置	
試料番号	試験月日	
試験機の型	試験方法： <input type="radio"/> 緩速 <input type="radio"/> 圧密急速 <input type="radio"/> 急速	
試料： <input type="radio"/> 乱さない <input type="radio"/> 乱した	せん断方法： <input type="radio"/> 応力制御 <input type="radio"/> ヒズミ制御	
供試体断面積	cm ²	ブルーピングリングNo.
供試体初期厚さ	cm	補正係数 $\frac{1}{100}$ mm
供試体断面積	cm ³	土粒子の比重G _s
		現場代理人
		測定者

供試体番号		1	2	3	4	5	6
初期の 状態	供試体質量 W g						
	湿潤密度 $\rho_i = W/V$ g/cm ³						
	含水比 ω %						
	乾燥密度 $\rho_d = 100 \rho_t / (100 + \omega)$ g/cm ³						
	間ガキ比 $e = G_s \rho_w / \rho_d - 1$						
	飽和度 $S_w = \omega G_s / e$ %						
せん断時の垂直荷重 σ kN/m ²							
載荷（圧密）時間							
沈下量 cm							
せん断 時の状 態	供試体体積 V' cm ³						
	供試体質量 W' g						
	湿潤密度 $\rho'_t = W' / V'$ g/cm ³						
	含水比 ω' %						
	乾燥密度 $\rho'_d = 100 \rho'_t / (100 + \omega')$ g/cm ³						
	間ガキ比 $e' = G_s \rho_w / \rho'_d - 1$						
	飽和度 $S'_y = \omega' G_s / e'$ %						
せん断速さ							
最大せん断強さ τ kN/m ²							



粘着力 $c =$ _____ kN/m²

内部摩擦角

$\phi =$ _____

$\tan \phi =$ _____

先行圧密荷重に対する

せん断強さ

$\tau \sigma =$ _____ kN/m²

垂直荷重 σ (kN/m²)

様式

様式第69号

土の遠心含水当量(JIS A1207)

工事名 _____ 位置 _____

試料採取地名 _____ 試験月日 _____

試料番号 _____

現場代理人 _____

測定者 _____

遠心含水当量試験			現場含水当量試験	
測定番号	1	2	容器番号 _____	WW _____
るつぼ番号			DW _____	TW _____
るつぼ質量Wc g			W _ω _____	W _s _____
かわいた口紙の質量We g			現場含水当量 ω _f = _____ %	
湿った口紙の質量Wd g			容器番号 _____	WW _____
遠心分離後の(るつぼ+湿紙+土)質量Wa g			DW _____	TW _____
炉乾燥後の(るつぼ+乾紙+土)質量Wb g			W _ω _____	W _s _____
(Wa-Wd) g			現場含水当量 ω _f = _____ %	
(Wb-We) g			容器番号 _____	WW _____
(Wa-Wd) - (Wb-We) g			DW _____	TW _____
Wb - (Wc+We) g			W _ω _____	W _s _____
遠心含水当量 ω _c %			現場含水当量 ω _f = _____ %	
平均値	ω _c = _____ %		平均値 ω _f = _____ %	

備考

$$\omega_c = \frac{(W_a - W_d) - (W_b - W_e)}{W_b - (W_c + W_e)} \times 100$$

試験は2回行い、2個の試験結果を比較する。
 その差は含水当量15%までのものは1%、15%以上のものは2%を超過してはならない。
 試料は標準網ふるい420 μを通過したもの。

様式第 70 号

土の収縮指定数試験 (JIS A1209)

工事名 _____ 位置 _____

試料採取地名 _____ 試験月日 _____

試験番号 _____ 現場代理人 _____

測定者 _____

試料番号 (深さ)	1			2			3		
測定 No.	1	2	3	1	2	3	1	2	3
収縮皿 No.									
(湿潤試料+収縮皿)質量 m_a g									
(炉乾燥試料+収縮皿)質量 m_b g									
収縮皿質量 m_c g									
炉乾燥試料質量 m_s g									
含水比 w %									
平均値 w %									
湿潤試料の体積 V cm ³									
炉乾燥試料の体積 V_s cm ³									
収縮限界 w_s %									
平均値 w_s %									
収縮比 R									
平均値 R									
ある含水比 w_1 %									
体積収縮率 C %									
繰収縮 L_s %									
近似的な土粒子の密度 ρ_s^1 g/cm ³									
ピクノメーターで求めた土粒子の密度 ρ_s g/cm ³									

試料番号 (深さ)	1			2			3		
測定 No.	1	2	3	1	2	3	1	2	3
収縮皿 No.									
(湿潤試料+収縮皿)質量 m_a g									
(炉乾燥試料+収縮皿)質量 m_b g									
収縮皿質量 m_c g									
炉乾燥試料質量 m_s g									
含水比 w %									
平均値 w %									
湿潤試料の体積 V cm ³									
炉乾燥試料の体積 V_s cm ³									
収縮限界 w_s %									
平均値 w_s %									
収縮比 R									
平均値 R									
ある含水比 w_1 %									
体積収縮率 C %									
繰収縮 L_s %									
近似的な土粒子の密度 ρ_s^1 g/cm ³									
ピクノメーターで求めた土粒子の密度 ρ_s g/cm ³									

特記事項

$$w = \frac{m_a - m_c - m_s}{m_s} \times 100 \qquad C = (w_1 - w_2) R$$

$$w_s = w - \frac{(V - V_s) \rho_s}{m_s} \times 100 \qquad L_s = \left(1 - \sqrt{\frac{100}{c + 100}} \right) \times 100$$

$$R = \frac{m_s}{V_s \rho_s} \qquad 1) \rho_s = \frac{\rho_s}{1/R - w_s/100}$$

様式

様式第 71 号

土の一軸圧縮試験 (初期状態, 軸圧縮過程) (JIS A1216)

工 事 名 _____ 位 置 _____

試料採取地名 _____ 試験月日 _____

試験番号 _____ 現場代理人 _____

測 定 者 _____

圧縮速度		%/min	荷重計No.		荷重計容量		Kgf	校正係数K	Kgf/目盛
供 試 体	No.	乱さない, 繰返した,			No.	乱さない, 繰返した,			
	直 径 cm	上	中	下	直 径 cm	上	中	下	
	平均直径 Docm	断面積 A _o cm ²			平均直径 Docm	断面積 A _o cm ²			
	高 さ cm				高 さ cm				
	平均高さ Hocm	質 量 mg			平均高さ Hocm	質 量 mg			
含 水 比	容器 No.	供試体の破壊状況			容器 No.	供試体の破壊状況			
	m _a g	<div style="border: 1px dashed black; width: 100px; height: 100px; margin: 0 auto;"></div>			m _a g	<div style="border: 1px dashed black; width: 100px; height: 100px; margin: 0 auto;"></div>			
	m _b g								
	m _c g								
	w %								
平均値 w%				平均値 w%					
圧 縮 量	圧縮ひずみ	荷重計の読み	圧縮力 P	圧縮応力	圧 縮 量	圧縮ひずみ	荷重計の読み	圧縮力 P	圧縮応力
ΔH1/100mm	ε %	R	= K · R Kgf	σ Kgf/cm ²	ΔH1/100mm	ε %	R	= K · R Kgf	σ Kgf/cm ²
<div style="border: 1px dotted black; width: 100%; height: 100%;"></div>									
特記事項					$\sigma = P(1 - \epsilon / 100) / A_0$				

様式第 72 号

土の一軸圧縮試験 (強度・変形特性) (JIS A1216)

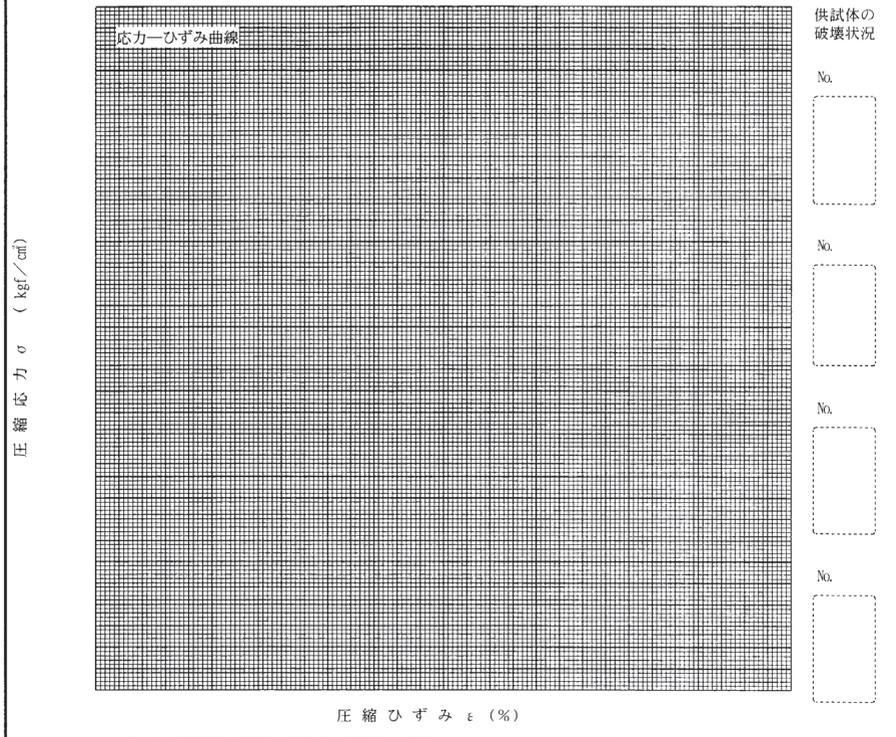
工事名 _____ 位置 _____

試料採取地名 _____ 試験月日 _____

試験番号 _____ 現場代理人 _____

測定者 _____

土質名称	供試体 No.		
液性限界 w_L %	試料の状態		
塑性限界 w_p %	高さ H_0 cm		
荷重計容量 kgf	直径 D_0 cm		
ひずみ速度 %/min	質量 m g		
特記事項	湿潤密度 ρ g/cm ³		
	含水比 w %		
	一軸圧縮強さ q_u kgf/cm ²		
	破壊ひずみ ϵ_f %		
	E_{50} kgf/cm ²		
	鋭敏比 S_r		



様式第 74 号

土の圧密試験 (圧密量測定) (JIS A1217)

工事名 重量

試験番号

採取深さ

乱さない } 試料
練り返した }

現場代理人

試験期間 平成 年 月 日 ~ 月 日

測定者

荷重段階			圧力			kgf/cm ²			荷重段階			圧力			kgf/cm ²			荷重段階			圧力			kgf/cm ²		
試験日			室温			°C			試験日			室温			°C			試験日			室温			°C		
時刻	経過時間	圧密量の読み 1/100mm	時刻	経過時間	圧密量の読み 1/100mm	時刻	経過時間	圧密量の読み 1/100mm	時刻	経過時間	圧密量の読み 1/100mm	時刻	経過時間	圧密量の読み 1/100mm	時刻	経過時間	圧密量の読み 1/100mm	時刻	経過時間	圧密量の読み 1/100mm	時刻	経過時間	圧密量の読み 1/100mm	時刻	経過時間	圧密量の読み 1/100mm
	6s			6s			6s			6s			6s			6s			6s				6s			
	9			9			9			9			9			9			9				9			
	15			15			15			15			15			15			15				15			
	30			30			30			30			30			30			30				30			
	1min			1min			1min			1min			1min			1min			1min				1min			
	1.5			1.5			1.5			1.5			1.5			1.5			1.5				1.5			
	2			2			2			2			2			2			2				2			
	3			3			3			3			3			3			3				3			
	5			5			5			5			5			5			5				5			
	7			7			7			7			7			7			7				7			
	10			10			10			10			10			10			10				10			
	15			15			15			15			15			15			15				15			
	20			20			20			20			20			20			20				20			
	30			30			30			30			30			30			30				30			
	40			40			40			40			40			40			40				40			
	1h			1h			1h			1h			1h			1h			1h				1h			
	1.5			1.5			1.5			1.5			1.5			1.5			1.5				1.5			
	2			2			2			2			2			2			2				2			
	3			3			3			3			3			3			3				3			
	6			6			6			6			6			6			6				6			
	24			24			24			24			24			24			24				24			

荷重段階			圧力			kgf/cm ²			荷重段階			圧力			kgf/cm ²			荷重段階			圧力			kgf/cm ²		
試験日			室温			°C			試験日			室温			°C			試験日			室温			°C		
時刻	経過時間	圧密量の読み 1/100mm	時刻	経過時間	圧密量の読み 1/100mm	時刻	経過時間	圧密量の読み 1/100mm	時刻	経過時間	圧密量の読み 1/100mm	時刻	経過時間	圧密量の読み 1/100mm	時刻	経過時間	圧密量の読み 1/100mm	時刻	経過時間	圧密量の読み 1/100mm	時刻	経過時間	圧密量の読み 1/100mm	時刻	経過時間	圧密量の読み 1/100mm
	6s			6s			6s			6s			6s			6s			6s				6s			
	9			9			9			9			9			9			9				9			
	15			15			15			15			15			15			15				15			
	30			30			30			30			30			30			30				30			
	1min			1min			1min			1min			1min			1min			1min				1min			
	1.5			1.5			1.5			1.5			1.5			1.5			1.5				1.5			
	2			2			2			2			2			2			2				2			
	3			3			3			3			3			3			3				3			
	5			5			5			5			5			5			5				5			
	7			7			7			7			7			7			7				7			
	10			10			10			10			10			10			10				10			
	15			15			15			15			15			15			15				15			
	20			20			20			20			20			20			20				20			
	30			30			30			30			30			30			30				30			
	40			40			40			40			40			40			40				40			
	1h			1h			1h			1h			1h			1h			1h				1h			
	1.5			1.5			1.5			1.5			1.5			1.5			1.5				1.5			
	2			2			2			2			2			2			2				2			
	3			3			3			3			3			3			3				3			
	6			6			6			6			6			6			6				6			
	24			24			24			24			24			24			24				24			

土の圧密試験 (計算書) (JIS A1217)

工事名 _____ 重量 _____

試験番号 _____

採取深さ _____

乱さない } 試料
繰り返した }

現場代理人 _____

試験期間 平成 年 月 日 ~ 月 日

測定者 _____

試験機 No.		室温 °C		直径 D cm		供断面積 A cm ²		初期含水比 w ₀ %	
土質名称		土粒子の密度 ρ _s g/cm ³		供高 H ₀ cm		試験体質量 m ₀ g		状態間隙比 e ₀	
液性限界 WL %		塑性限界 WP %		供体乾燥質量 m _s g		実質高さ H _c cm		飽和度 S _r %	
								圧縮指数 C _c	
								圧密降伏応力 p _v kgf/cm ²	
荷重段階 n	圧密圧力 p kgf/cm ²	増加圧力 Δp kgf/cm ²	圧密度 ΔH cm	供試体高さ H cm	平均供試体高さ H̄ cm	圧縮ひずみ ε = 100ΔH/H %	体積圧縮係数 m _v cm ³ /kgf	体積比 f = H/H ₀	間隙比 e = f - 1
0									
1									
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
荷重段階	平均圧密圧力 p̄ kgf/cm ²	t ₉₀ , t ₅₀ min	圧密係数 c _v cm/d	一次圧密度 ΔH' cm	一次圧密比 r = ΔH' / ΔH	補正圧密係数 c' _v = r c _v cm/d	透水係数 k cm/s	透水係数 k' cm/s	
0									
1									
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									

特記事項

1) 求め方: 方法 1, 方法 2

$$H_s = m_v / (p_s A) \quad \bar{p}_v = \sqrt{p_s \cdot t \cdot p_s}$$

$$H_n = H_{n-1} - \Delta H_n \quad \sqrt{t} \text{法: } C_v = 305 \bar{H}^2 / t_{90}$$

$$\bar{H}_n = (H_n + H_{n-1}) / 2 \quad \text{曲線定規法: } C_v = 70 \cdot 9 \bar{H}^2 / t_{50}$$

$$m_v = (\varepsilon / 100) / \Delta p \quad k = C_v m_v r_v / (8.61 \times 10^7)$$

$$S_w = w_0 p_s / (e_0 p_s) \quad k' = C_v m_v r_v / (8.61 \times 10^7)$$

様式第 78 号

土の圧密試験 ($e-\log p$ 曲線) (JIS A1217)

工事名 _____ 位置 _____

試験番号 _____

採取深さ _____

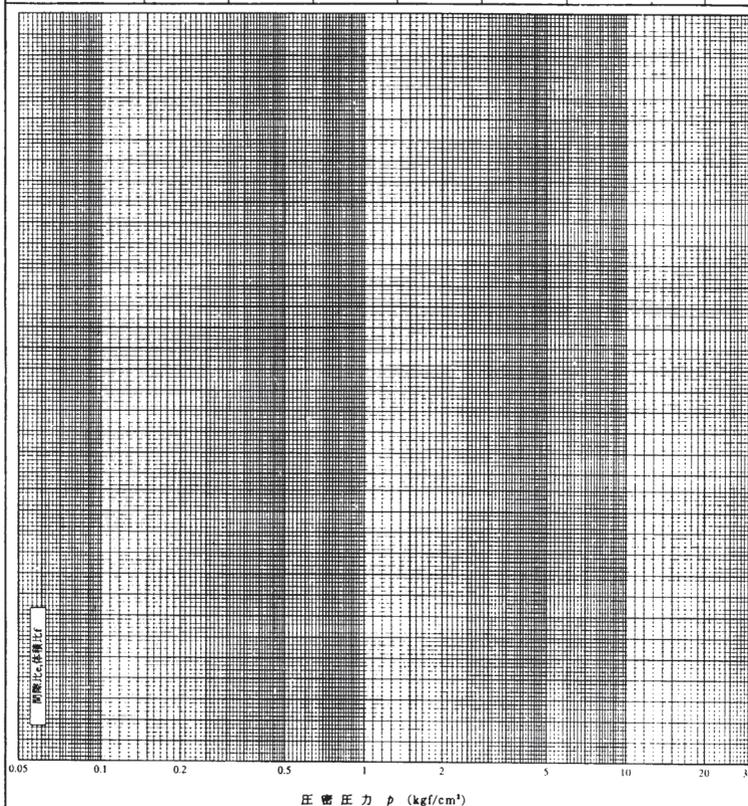
乱さない } 試料
練り返した }

現場代理人 _____

試験期間 平成 年 月 日 ~ 月 日

測定者 _____

試料番号 (深 さ)	初期含水比 w_0 %	液性限界 w_L %	初期体積比 J_0	初期間隙比 e_0	圧縮指数 C_c	圧密降伏応力 p_v kgf/cm ² 求め方	記号



特記事項 _____

様式

様式第 79 号

土の圧密試験 (c_um_u- \bar{p} 曲線) (JIS A1217)

工事名 _____ 位置 _____

試験番号 _____

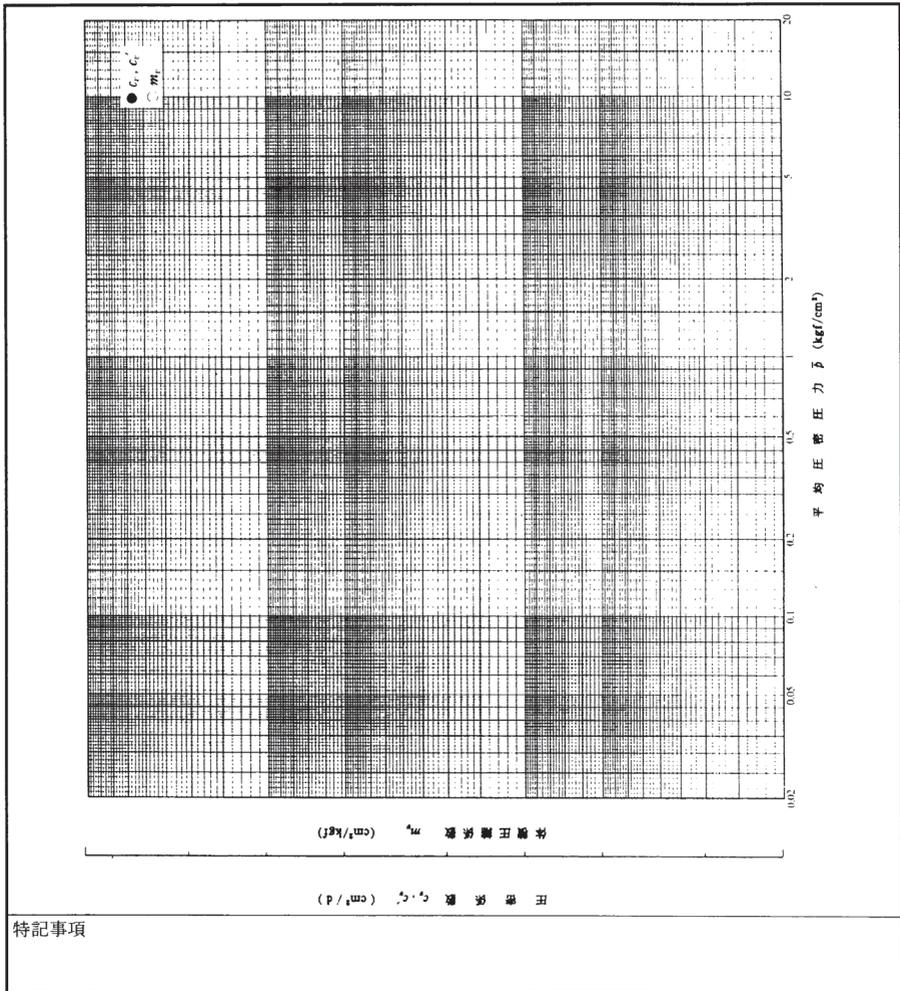
採取深さ _____

乱さない } 試料
繰り返した }

現場代理人 _____

試験期間 平成 年 月 日 ~ 月 日

測定者 _____



様式第 80 号

土の透水試験 (定水位, 変水位) (JIS A1218)

工 事 名 _____ 位 置 _____

調査名, 目的 _____

試験期間 年 _____ 月 _____ 日 _____

現場代理人 _____

試験番号 _____

測 定 者 _____

試料	土質名称		透水器 No.	容器		
	最大粒径	mm		内径 D_m	cm	
	土粒子の密度 ρ_s	g/cm ³		長さ L_m	cm	
スタンドパイプ ¹⁾	内径	cm	試験用水			
	断面積 a	cm ²				
供試体作製						
飽和 和 方法						
供試体寸法	供試体 No.		試験前		試験後 ²⁾	
	直径 D	cm	(供試体 + 透水管) 質量 m_1		g	
	断面積 A	cm ²	供試体質量 $m = m_1 - m_2$		g	
	長さ L	cm	湿潤密度 $\rho_w = m/V$		g/cm ³	
	体積 V	cm ³	乾燥密度 $\rho_d = \rho_w / (1 + w/100)$		g/cm ³	
	状態		間隙比 $e = (\rho_s/\rho_d) - 1$			
	飽和		飽和度 $S_r = w\rho_w / (e\rho_s)$		%	
含水比	試験前		試験後 ²⁾			
	容器 No.					
	m_a	g				
	m_b	g				
	m_c	g				
w_s	wf %					
	平均値	%				
測定 No.		1	2	3	4	5
測定開始時刻	t_1					
測定終了時刻	t_2					
測定時間	$t_2 - t_1$					
定水位差	h	cm				
透水流量	Q	l				
T°Cに対する透水係数	k_1^3	cm/s				
変時刻 t_1 における水位差	h_1	cm				
変時刻 t_2 における水位差	h_2	cm				
T°Cに対する透水係数	k_2^3	cm/s				
測定時の水温	T	°C				
温度補正係数	$\eta T / \eta 15$					
15°Cに対する透水係数	k_{15}	cm/s				
代表値	k_{15}	cm/s				
特記事項	<p>1) 変水位試験の場合</p> <p>2) 透水管、底板、シール材などを含む。</p> <p>3) 保水性の小さい試料は測定を省いてよい。</p> <p>4) $k_1 = \frac{L}{l_1} \cdot \frac{Q}{A(t_2 - t_1)}$</p> <p>5) $k_1 = 2.30 \frac{dL}{A(t_2 - t_1)}$</p> <p style="text-align: center;">$k_{15} = k_T \cdot \eta T / \eta 15$</p>					

様式

様式第 81 号

コーン指数測定試験

工事名 _____ 位置 _____

測定番号 _____ 測定箇所 _____

調査目的 { 捨土すべき不良土
土の運搬、まき出し作業が可能か否か } の判定

測定時の状態 (天候その他) _____ 現場代理人 _____

試験月日 _____ 測定者 _____

I 捨土すべき不良土の試験						
ロットの目盛	ブルーピングの読み	貫入抵抗値 (kg)	貫入抵抗値 (kg)		摘 要	
			コーン面積			
7.5cm						
10.0						
12.5						
平 均						
II 土の運搬、まき出し作業が可か否かの試験						
箇所	ロットの目盛	ブルーピングの読み	貫入抵抗値 (kg)	貫入抵抗値 (kg)		摘 要
				コーン面積		
1	10					
	15					
	20					
2	10					
	15					
	20					
3	10					
	15					
	20					
4	10					
	15					
	20					
5	10					
	15					
	20					
計						
平 均						
注. 土の運搬、まき出し作業の可能か否かの試験の摘要には試験前日の天候 (特に雨量) について記入のこと。						

様式第82号

現場密度測定試験（置換法）

工事名 _____

位置 _____

現場代理人 _____

測定者 _____

$$\text{含水比}\% = \frac{WW (\text{湿潤土+容器の質量}) - DW (\text{乾燥土+容器の質量})}{DW (\text{乾燥土+容器の質量}) - TW (\text{容器の質量})} \times 100$$

$$= \frac{W\omega (\text{試料中の水の質量})}{Ws (\text{乾燥土の質量})} \times 100$$

$$\rho t (\text{湿潤密度}) \text{ g/cm}^3 = \frac{W\omega s (\text{湿潤土の質量})}{TV (\text{穴の容積})} \quad \rho d (\text{乾燥密度}) \text{ g/cm}^3 = \frac{100 \rho t (\text{湿潤密度})}{100 + \text{含水比}}$$

WW測定日時試験名及び試料番号	含水比の測定				含水比 %	密度の測定	密度 g/cm ³	備考
月 日 時 試料No.	容器番号 _____	WW _____	DW _____	TW _____		湿潤土質量 W _{ωs}	ρ t	
	_____	_____	_____	_____		穴の容積 TV	ρ d	
	_____	_____	_____	_____				
月 日 時 試料No.	容器番号 _____	WW _____	DW _____	TW _____		湿潤土質量 W _{ωs}	ρ t	
	_____	_____	_____	_____		穴の容積 TV	ρ d	
	_____	_____	_____	_____				
月 日 時 試料No.	容器番号 _____	WW _____	DW _____	TW _____		湿潤土質量 W _{ωs}	ρ t	
	_____	_____	_____	_____		穴の容積 TV	ρ d	
	_____	_____	_____	_____				
平 均								
月 日 時 試料No.	容器番号 _____	WW _____	DW _____	TW _____		湿潤土質量 W _{ωs}	ρ t	
	_____	_____	_____	_____		穴の容積 TV	ρ d	
	_____	_____	_____	_____				
月 日 時 試料No.	容器番号 _____	WW _____	DW _____	TW _____		湿潤土質量 W _{ωs}	ρ t	
	_____	_____	_____	_____		穴の容積 TV	ρ d	
	_____	_____	_____	_____				
平 均								

現場密度測定試験（モールド円筒法）

工事名 _____

位 置 _____

現場代理人 _____

測 定 者 _____

$$\text{含水比}\% = \frac{\text{WW (湿潤土+容器の質量)} - \text{DW (乾燥土+容器の質量)}}{\text{DW (乾燥土+容器の質量)} - \text{TW (容器の質量)}} \times 100$$

$$= \frac{W\omega \text{ (試料中の水の質量)}}{W_s \text{ (乾燥土の質量)}} \times 100$$

$$\rho_t \text{ (湿潤密度)} \text{ g/cm}^3 = \frac{W\omega_s \text{ (湿潤土の質量)}}{TV \text{ (穴の容積)}}$$

$$\rho_d \text{ (乾燥密度)} \text{ g/cm}^3 = \frac{100 \rho_t \text{ (湿潤密度)}}{100 + \text{含水比}}$$

WW測定日時試験名及び試料番号	含水比の測定	含水比 %	含水比の測定	密度 g/cm ³	備 考
月 日 時 試料No.	容器番号 _____ DW _____ TW _____ W ω _____ W s _____		容器番号 _____ WW _____ W ω s _____ TW _____ TV _____	ρ_t ρ_d	
月 日 時 試料No.	容器番号 _____ DW _____ TW _____ W ω _____ W s _____		容器番号 _____ WW _____ W ω s _____ TW _____ TV _____	ρ_t ρ_d	
月 日 時 試料No.	容器番号 _____ DW _____ TW _____ W ω _____ W s _____		容器番号 _____ WW _____ W ω s _____ TW _____ TV _____	ρ_t ρ_d	
平 均			平 均		
月 日 時 試料No.	容器番号 _____ DW _____ TW _____ W ω _____ W s _____		容器番号 _____ WW _____ W ω s _____ TW _____ TV _____	ρ_t ρ_d	
月 日 時 試料No.	容器番号 _____ DW _____ TW _____ W ω _____ W s _____		容器番号 _____ WW _____ W ω s _____ TW _____ TV _____	ρ_t ρ_d	
月 日 時 試料No.	容器番号 _____ DW _____ TW _____ W ω _____ W s _____		容器番号 _____ WW _____ W ω s _____ TW _____ TV _____	ρ_t ρ_d	
平 均			平 均		

様式第84号

現場飽和度・空気間ゲキ率測定試験 (現場密度測定試験置換法による)

工事名 _____

位 置 _____

現場代理人 _____

測 定 者 _____

$$\begin{aligned} \text{含水比}\% &= \frac{WW (\text{湿潤土+容器の質量}) - DW (\text{乾燥土+容器の質量})}{DW (\text{乾燥土+容器の質量}) - TW (\text{容器の質量})} \times 100 \\ &= \frac{W\omega (\text{試料中の水の質量})}{W_s (\text{乾燥土の質量})} \times 100 \end{aligned}$$

$$\rho_t (\text{湿潤密度}) \text{ g/cm}^3 = \frac{W\omega_s (\text{湿潤土の質量})}{TV (\text{穴の容積})} \quad \rho_d (\text{乾燥密度}) \text{ g/cm}^3 = \frac{100\rho_t (\text{湿潤密度})}{100+\text{含水比}}$$

$$Sr (\text{飽和度}) \% = \frac{G_s (\text{土粒子の比重}) \times \rho_d (\text{土の乾燥密度}) \times \omega (\text{含水比})}{G_s (\text{土粒子の比重}) \times \rho_w (\text{水の単重}) - \rho_d (\text{土の乾燥密度})} \times 100$$

$$Va (\text{空気間ゲキ率}) \% = \left\{ 1 - \frac{\rho_d (\text{土の乾燥密度})}{\rho_w (\text{水の単重})} (\omega (\text{含水比}) + \frac{1}{G_s (\text{土粒子の比重})}) \right\} \times 100$$

WW測定日時試験名及び試料番号	含水比の測定		含水比 %	密度の測定	密度 g/cm ³	土粒子の比重	飽和度又は空気間隙率 %	備考
月 日 時 試料No.	容器番号 _____	WW _____		湿潤土質量 W _{ws}	ρ _t		Sr	
	DW _____	TW _____		穴の容積 TV	ρ _d		Va	
	W _ω _____	W _s _____						
月 日 時 試料No.	容器番号 _____	WW _____		湿潤土質量 W _{ws}	ρ _t		Sr	
	DW _____	TW _____		穴の容積 TV	ρ _d		Va	
	W _ω _____	W _s _____						
月 日 時 試料No.	容器番号 _____	WW _____		湿潤土質量 W _{ws}	ρ _t		Sr	
	DW _____	TW _____		穴の容積 TV	ρ _d		Va	
	W _ω _____	W _s _____						
	平 均			平 均				
月 日 時 試料No.	容器番号 _____	WW _____		湿潤土質量 W _{ws}	ρ _t		Sr	
	DW _____	TW _____		穴の容積 TV	ρ _d		Va	
	W _ω _____	W _s _____						
月 日 時 試料No.	容器番号 _____	WW _____		湿潤土質量 W _{ws}	ρ _t		Sr	
	DW _____	TW _____		穴の容積 TV	ρ _d		Va	
	W _ω _____	W _s _____						
	平 均			平 均				

現場飽和度・空気間ゲキ率測定試験
(現場密度測定試験モールド円筒法による)

工事名 _____

位置 _____

現場代理人 _____

測定者 _____

$$\text{含水比} \% = \frac{WW (\text{湿潤土+容器の質量}) - DW (\text{乾燥土+容器の質量})}{DW (\text{乾燥土+容器の質量}) - TW (\text{容器の質量})} \times 100$$

$$= \frac{W\omega (\text{試料中の水の質量})}{W_s (\text{乾燥土の質量})} \times 100$$

$$\rho_t (\text{湿潤密度}) \text{ g/cm}^3 = \frac{W\omega_s (\text{湿潤土の質量})}{TV (\text{穴の容積})} \quad \rho_d (\text{乾燥密度}) \text{ g/cm}^3 = \frac{100 \rho_t (\text{湿潤密度})}{100 + \text{含水比}}$$

$$Sr (\text{飽和度}) \% = \frac{G_s (\text{土粒子の比重}) \times \rho_d (\text{土の乾燥密度}) \times \omega (\text{含水比})}{G_s (\text{土粒子の比重}) \times \rho_w (\text{水の単重}) - \rho_d (\text{土の乾燥密度})} \times 100$$

$$Va (\text{空気間ゲキ率}) \% = \left\{ 1 - \frac{\rho_d (\text{土の乾燥密度})}{\rho_w (\text{水の単重})} \left(\omega (\text{含水比}) + \frac{1}{G_s (\text{土粒子の比重})} \right) \right\} \times 100$$

WW測定日時試験名及び試料番号	含水比の測定				含水比 %	密度の測定				密度 g/cm ³	土粒子の比重	飽和度又は空気間隙率%	備考
月 日 時 試料No.	容器番号 _____	WW _____	DW _____	TW _____		容器番号 _____	WW _____	W ω s _____	TV _____	ρ t _____		Sr _____	
	W ω _____	Ws _____								ρ d _____		Va _____	
月 日 時 試料No.	容器番号 _____	WW _____	DW _____	TW _____		容器番号 _____	WW _____	W ω s _____	TV _____	ρ t _____		Sr _____	
	W ω _____	Ws _____								ρ d _____		Va _____	
月 日 時 試料No.	容器番号 _____	WW _____	DW _____	TW _____		容器番号 _____	WW _____	W ω s _____	TV _____	ρ t _____		Sr _____	
	W ω _____	Ws _____								ρ d _____		Va _____	
月 日 時 試料No.	平 均					平 均							
月 日 時 試料No.	容器番号 _____	WW _____	DW _____	TW _____		容器番号 _____	WW _____	W ω s _____	TV _____	ρ t _____		Sr _____	
	W ω _____	Ws _____								ρ d _____		Va _____	
月 日 時 試料No.	容器番号 _____	WW _____	DW _____	TW _____		容器番号 _____	WW _____	W ω s _____	TV _____	ρ t _____		Sr _____	
	W ω _____	Ws _____								ρ d _____		Va _____	
月 日 時 試料No.	平 均					平 均							

様式

様式第89号

骨材の単位容積重量試験 (JIS A1104)

工事名 _____

位置 _____

試料採取
地名 _____

現場代理人 _____

測定者 _____

測定 年月日	天候	A kg	B kg	C l	D kg	比重=A/D	単位容積重量=D/C	
							標準単重	輕盛単重
							標準単重	
							輕盛単重	
							標準単重	
							輕盛単重	
							標準単重	
							輕盛単重	
							標準単重	
							輕盛単重	
							標準単重	
							輕盛単重	
							標準単重	
							輕盛単重	
							標準単重	
							輕盛単重	
							標準単重	
							輕盛単重	
							標準単重	
							輕盛単重	

(注) A 容器+試料質量
B 容器の質量
C 容器の容積
D 試料の質量

様式第 96 号

アスファルトの抽出試験

工事名 _____

工種名 _____

試料番号 _____

舗装箇所 _____

現場代理人 _____

試験月日 _____

測定者 _____

密度測定結果

試料の空中重量 (g)	①	
試料の表乾空中重量 (g)	②	
試料の水中重量 (g)	③	
試料の体積 (cm ³)	②-③	
試料の児掛密度 (g/cm ³)	①	
備考	②-③	

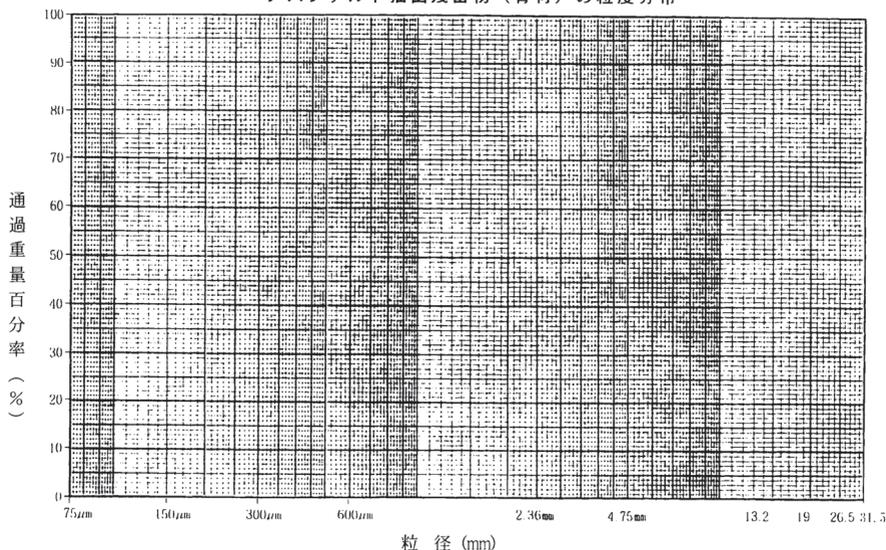
抽出残留物のふるい分け結果

ふるい目の開き (mm)	各ふるい残留重量 (g)	各ふるい残留百分率 (%)	累加残留百分率 (%)	通過百分率 (%)
31.5				
26.5				
19				
13.2				
4.75				
2.36				
600 μm				
300 μm				
150 μm				
75 μm				
75 μm以下				
備考				

アスファルト抽出試験結果

抽出前の試料重量+試料容器 (g)			
抽出前の試料重量 (g)	①		
抽出後の試料容器重量 (g)			
抽出後の試料重量 (g)	②		
アスファルト量 (g)	③	①-②	
アスファルト配合率 (配合物) に対して (%)	④	$\frac{③}{①} \times 100$	
備考			

アスファルト抽出残留物 (骨材) の粒度分布



様式第98号

ホットビンにおけるふるい分け試験

工事名 _____

位置 _____

工種名 _____

現場代理人 _____

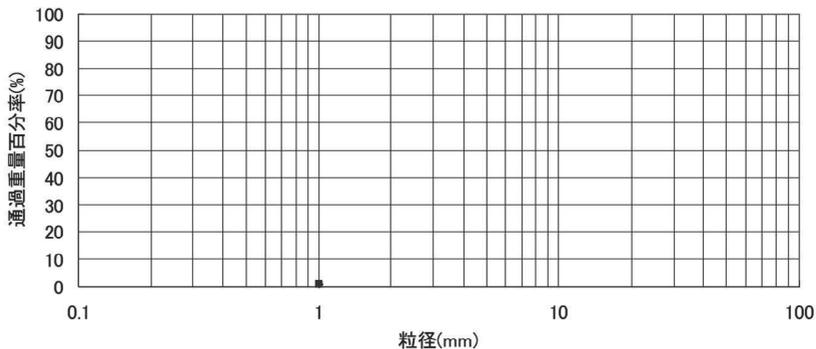
試験年月日 _____

測定者 _____

ふるい目の大きさ(mm)	第1ビン		第2ビン		第3ビン		第4ビン		第5ビン		石 粉		合成粒度	
	残留%	計量比率%	残留%	計量比率%	残留%	計量比率%								
37.5~31.5														
31.5~26.5														
26.5~19.0														
19.0~13.2														
13.2~4.75														
4.75~2.36														
2.36~600 μ m														
600~300														
300~150														
150~75														
75以下														
計														

粒度範囲
指定粒度

アスファルト混合物（骨材）合成粒度曲線



機械ボーリング作業日報

現場代理人： _____

工 事 名				調査場所名		
調査地点番号		調査月日			天 候	
調査地点標高		予定深度			掘進深度	日深度
						累計
機 械 名		能 力			孔 径	
作業内容				使用材料		

月 / 日	深 度		地下水 湧 水 漏 水	岩 相				コ ア		試料 番号	ビット 名	回転数 回/min	掘進速度 cm/min	摘 要
		累計		記号	分類	色調	硬 軟 その他記事	長さ	採取率					
	1													
	2													
	3													
	4													
	5													
	6													
	7													
	8													
	9													
	10													
摘 要	地下水については、湧水、漏水などが起こった場合、その深度水量について記載する。 掘進の難易について記載する。 その他・気づいた点を詳細に記載する。													

(注) 本表は1週間まとめて提出することができる。

様式第100号

まだ固まらないコンクリートの洗い分析試験結果表 JIS A1112

工事名 _____ 試験採取箇所 _____ 現場代理人 _____
 用途 (構造物名) _____ 試験年月日 _____ 天候 _____ 測定者 _____

設計条件	粗骨材最大寸法		m/m	スランプ	cm	空気量	%	セメント量	kg/m ³	基準強度	N/mm ²	混和剤
	細骨材	粗骨材										
試験番号	子備試験による比重	試料	重容量器の水	重容量器の水	重容量器の水	重容量器の水						
	粗骨材	粗骨材	重容量器の水 + 水中	重容量器の水 + 水中	重容量器の水 + 水中	重容量器の水 + 水中						
No.	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
平均値												

単位重量 (kg/m³)

配合	セメント (kg)		粗骨材 (kg)	細骨材 (kg)	水 (l)	計	スランプ (cm)	空気量 (%)
	⑬	⑭						
実測試験結果	(23)	(24)	(25)	(26)	(27)	(28)	(29)	(30)

様式第101号

浸透探傷試験記録書

工事名		検査員氏名	
杭番号		確認員氏名	
検査月日			

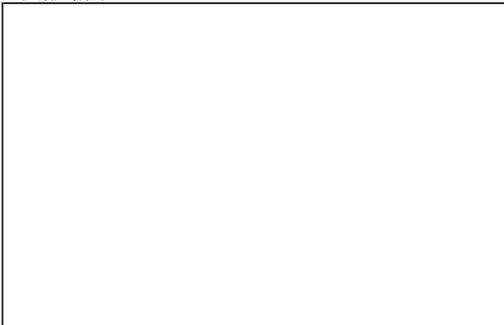
1. 探傷剤及び条件

検査方法	浸透時間	分	現像時間	分
探傷表面状態	<input type="radio"/> 溶接のまま <input type="radio"/> その他 ()		気温	開始時
	使用液製品名	製造会社		終了時
				ロット番号
浸透液				
現像液				
洗浄液				

2. 試験結果

<input type="checkbox"/> 割れによる指示模様の有無	<input type="radio"/> 無し <input type="radio"/> 有り
<input type="checkbox"/> 線状欠陥指示模様の有無	<input type="radio"/> 無し <input type="radio"/> 有り 【 】 mm
<input type="checkbox"/> 円状欠陥指示模様の有無	<input type="radio"/> 無し <input type="radio"/> 有り 【 】 mm
<input type="checkbox"/> 連続欠陥指示模様の有無	<input type="radio"/> 無し <input type="radio"/> 有り 欠陥個数 最大欠陥長 隣接欠陥距離 【 】箇所 【 】 mm 【 】 mm
<input type="checkbox"/> 分散欠陥指示模様の有無	<input type="radio"/> 無し <input type="radio"/> 有り 欠陥個数 最大欠陥長 【 】箇所 【 】 mm

3. 欠陥略図



判 定	
-----	--

様式第102号

放射線透過試験記録書			
工事名		試験技術者の所属氏名	
杭番号		確認員氏名	
杭の材質 母材の肉厚mm		確認月日	
撮影年月日			

1. 試験条件

使用装置 及び材料	(a) 放射線透過装置名	
	(b) 実行焦点寸法	
	(c) フィルム及び像感紙の種類	
	(d) 透過度計の種類	
	(e) 階調計の種類	
撮影条件	(a) 使用管電圧又は放射性同位元素の種類	
	(b) 使用管電流又は放射線の強さ	
	(c) 露出時間	
撮影配置	(a) L1+L2	
	(b) L2	
	(c) L3	
現像条件	(a) 現像液・現像温度・現像時間（手現像）	
	(b) 自動現像機名及び現像液（自動現像）	

2. 試験結果の判定 母材の厚さ（ ） 試験視野（ ）

きずの区分						
第1種のきず ○無し ○有り	きず番号	きず長径	きず点数	個別分類	総合分類	
	No. 1	mm	点			
	No. 2	mm	点			
	No. 3	mm	点			
	小計	mm	点			
第4種のきず ○無し ○有り	きず番号	きず長径	きず点数	個別分類		
	No. 1	mm	点			
	No. 2	mm	点			
	No. 3	mm	点			
	小計	mm	点			
第2種のきず ○無し ○有り	きず番号	きず長径	きず点数	個別分類		
	No. 1	mm	点			
	No. 2	mm	点			
	No. 3	mm	点			
	小計	mm	点			
第3種のきず ○無し ○有り				個別分類	総合 () 類	
						() 類

塗装膜厚測定表

工事名		工種名		現場代理人						
				監理技術者						
ロット番号		受注者		主任技術者						
				施工管理担当者						
塗装系	基準膜厚合計値			μ						
測定時点	<input type="radio"/> 工場塗装終了後 <input type="radio"/> 現場塗装開始前		<input type="radio"/> 現場塗装終了後							
測定月日				測定者						
測定位置										
測定値	1	2	3	4	5	計	平均 \bar{X}_i	$\bar{X} - \bar{X}_i$	$(X - \bar{X}_i)^2$	
測定位置	1	2	3	4	5					
	2									
	3									
	4									
	5									
	6									
	7									
	8									
	9									
	10									
	11									
	12									
	13									
	14									
	15									
	16									
	17									
	18									
	19									
	20									
	21									
	22									
	23									
	24									
	25									
合計										
	平均値 $\bar{X} =$						標準偏差 $S =$			

平均値	$\bar{X} = \frac{1}{N} \sum_{i=1}^N X_i$	
標準偏差	$S = \sqrt{\frac{1}{N-1} \sum_{i=1}^N (\bar{X} - X_i)^2}$	

品質証明書

工事名： _____

社内証明記事				
社内検査項目	実施日	箇所	社内検査員氏名	記事

社内検査した結果、工事請負契約書、図面、仕様書、その他関係図書に示された品質を確保していることを確認したので報告します。

受注者 住 所
氏 名

主任監督員	監督員
-------	-----

除 雪 月 報 (月分)

工事

現場代理人

工種別延稼働時間

機種	除雪 グレーダー (G)	除雪 トラクタ (PO)	ロータリ 除雪車 (R)	ブル及びタ イヤドー ザー (B)	スノー ローダー (L)	スノー メルター (M)	トラク ター シヨベル (S)	ダンブ ラック及 びトラッ ク (T)	歩道 除雪車 (SR)	運搬 排雪車	備考
工種											
新雪除雪											
拡幅除雪											
路面整正											
運搬排雪											
水盤処理											
その他											
計											

様式第108号

除雪機械に関する指示票					
			年 月 日		
工 事 名					
指 示 事 項				主任監督員	
				監 督 員	
				上記事項について指示します。	
上記事項について了解しました。			現場代理人		
年 月 日			主任技術者		

除雪機械の修理整備等に関する協議書

年 月 日

工 事 名					
協 議 事 項	機 械 名			機 械 番 号	
	故 障 発 生 日 時	年 月 日		午前・午後	時 分頃
	故 障 発 生 場 所	地 内			
	アワーメーター の 読 み	故障発生時	h	貸付開始時	h
上記の修理・整備は		受注者が 発注者が 別途	行う。費用は	受注者が負担 発注者が負担する。 別途協議	
修理工場は、「		」とする。			
摘 要					
上記事項について協議します。		主任 監督員		現場代理人	
年 月 日		監 督 員		主任技術者	

除雪機械の修理整備等に関する報告書

年 月 日

工 事 名

報
告
事
項

現場代理人

主任技術者

上記事項について報告します。

上記事項について確認しました。

主任監督員

年 月 日 監督員

連絡先一覧表

公所名:

工区:

工事名:

1. 発注者側連絡先

公 所 名	電 話 :	F A X :
住 所		
主 任 監 督 員	自 宅 電 話 :	留 守 宅 電 話 :
監 督 員	自 宅 電 話 :	留 守 宅 電 話 :

2. 発注者側連絡先

公 所 名	電 話 :	F A X :
住 所		
主 任 監 督 員	自 宅 電 話 :	留 守 宅 電 話 :
監 督 員	自 宅 電 話 :	留 守 宅 電 話 :

3. 受注者側連絡先

会 社 名	電 話 :	F A X :
会 社 住 所		
現 場 代 理 人	自 宅 電 話 :	留 守 宅 電 話 :
主 任 技 術 者	自 宅 電 話 :	留 守 宅 電 話 :
機 械 関 係 担 当 者 等	自 宅 電 話 :	留 守 宅 電 話 :

(A4版)

7 被害内容（記入欄不足の場合は、適宜別紙に記すこと。）

人的被害	住 所	TEL
	氏 名 等	男・女 才
	職 業 名	
	就業先名	TEL
	職種名等	(勤務年数) 年
	負傷内容	
	収 容 先	TEL
物的被害	物 件 名	
	管理（所 有）者名	
	及び住所	TEL
	使用者名 及び	男・女 才
	住 所	TEL
	被害程度	
	応急処置	
事 故 内 容 (簡略に記入する)		

8 事故概要と経過（別紙とし様式自由）

- 9 添付資料（現場状況写真、位置図、平面図、横断図、事故発生状況図、請負契約㊟、
 施工体制台帳、施工体系図、下請負契約書㊟、県外業者との下請契約締結報告書㊟、
 現場代理人等通知書㊟、診断書㊟、死傷病報告書㊟、指名停止事由通報書、今後の
 安全措置状況、その他）

未添付資料は「——」で消すこと。

様式第117号(表)

創意工夫・社会性等に関する実施状況

工 事 名	受注者名	
項 目	評価内容	実施内容
<input type="checkbox"/> 創意工夫 自ら立案実施した創意工夫や技術力	<input type="checkbox"/> 施工	<ul style="list-style-type: none"> ・施工に伴う器具、工具、装置等の工夫 ・コンクリート二次製品等の代替材の適用 ・施工方法の工夫、施工環境の改善 ・仮設備計画の工夫 ・施工管理の工夫 ・ICT(情報通信技術)の活用 等
	<input type="checkbox"/> 新技術活用	NETIS登録技術のうち、 <ul style="list-style-type: none"> ・試行技術の活用 ・「少実績優良技術」の活用 ・「少実績優良技術」を除く「有用とされる技術」の活用 ・試行技術及び「有用とされる技術」以外の新技術の活用
	<input type="checkbox"/> 品質	<ul style="list-style-type: none"> ・土工、設備、電気の品質向上の工夫 ・コンクリートの材料、打設、養生の工夫 ・鉄筋、コンクリート二次製品等使用材料の工夫 ・配筋、溶接作業等の工夫 等
	<input type="checkbox"/> 安全衛生	<ul style="list-style-type: none"> ・安全衛生教育・講習会・パトロール等の工夫 ・仮設備の工夫 ・作業環境の改善 ・交通事故防止の工夫 ・環境保全の工夫 等
<input type="checkbox"/> 社会性等 地域社会や住民に対する貢献	<input type="checkbox"/> 地域への貢献等	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺環境への配慮 ・現場環境の周辺地域との調和 ・地域住民とのコミュニケーション ・災害時など地域への支援・行政などによる救援活動への協力 等

様式

様式第117号(裏)

高度技術・創意工夫・社会性等に関する実施状況(説明資料)

工 事 名			／
項 目		評価内容	
提 案 内 容			
(説 明)			
(添 付 図)			

説明使用は簡潔に作成するものとし、必要に応じて別葉とする。